



平成24年度 中国地方整備局関係予算概要(鳥取県内)

鳥取河川国道事務所
倉吉河川国道事務所
日野川河川事務所
境港湾・空港整備事務所
出雲河川事務所
三次河川国道事務所

【問い合わせ先】

鳥取河川国道事務所	(河川)副所長	<small>いぬやま</small> 犬山 <small>ただし</small> 正	TEL 0857-22-8435(代)
	(道路)副所長	<small>いのうえ</small> 井上 <small>かずひさ</small> 和久	
倉吉河川国道事務所	(河川)副所長	<small>たけべ</small> 武部 <small>まさみ</small> 真実	TEL 0858-26-6221(代)
	(道路)副所長	<small>じんぐう</small> 神宮 <small>しょうじ</small> 祥司	
日野川河川事務所	(技術)副所長	<small>かわもと</small> 川本 <small>ようじろう</small> 洋次郎	TEL 0859-27-5484(代)
境港湾・空港整備事務所	(技術)副所長	<small>たみや</small> 田宮 <small>あつみ</small> 厚美	TEL 0859-42-3145(代)
出雲河川事務所	(技術)副所長	<small>さかもと</small> 坂本 <small>やすまさ</small> 泰正	TEL 0853-21-1850(代)
三次河川国道事務所	(技術)副所長	<small>しんたく</small> 新宅 <small>きよと</small> 清人	TEL 0824-63-4121(代)

平成24年度事業費（事務所別）

（単位：百万円）

事業部門		平成24年度 事業費（当初）						23年度 （当初）	
		鳥取	倉吉	日野川	境	出雲	三次		合計
河川事業	改修 環境整備 応急対策	295	379	169	/	274	/	1,117	1,376
		0	0	0	/	118	/	118	159
		80	0	20	/		/	100	0
砂防事業	砂防	/	389	463	/	/	/	852	1,100
海岸事業	海岸	/	/	460	/	/	/	460	517
開河 発川 事業合	堰堤改良	0	/	278	/	/	/	278	570
道路 事業	地域連携 交通安全 電線共同溝	11,200	4,900	/	/	/	25	16,125	12,855
		629	273	/	/	/	0	902	942
		0	0	/	/	/	0	0	341
港湾 事業	鳥取港 境港	/	/	/	350	/	/	350	210
		/	/	/	350	/	/	350	350
空港 事業	美保飛行場 （米子空港）	/	/	/	0	/	/	0	0

（注意）

- （1）出雲河川事務所、境港湾・空港整備事務所は鳥取県関連分のみである。
- （2）事業費には、調査費、業務取扱費・災害復旧費を含まない。
- （3）上記予算の他に、地方整備局一括配分として、河川維持修繕費、堰堤維持費、総合流域防災対策事業費、交安Ⅱ種、維持管理費等がある。
- （4）一般河川改修事業には、東日本大震災の教訓を踏まえた「全国防災」の河川津浪対策等に係る予算を含む

平成24年度事業の概要

鳥取河川国道事務所

1. 河川事業

・千代川一般河川改修事業(稲常箇所)^{いなつね} 【資料編 鳥取-1】

鳥取市河原町稲常地先において、堤防の安定化と定規断面の確保を行うため、築堤護岸、断面拡大及び合流点処理を実施します。

平成24年度は用地買収、工事を促進し、平成25年度の完成を目指します。

2. 道路事業

○高規格幹線道路関係

1) 一般国道9号 鳥取西道路(延長7.0km) 【資料編 鳥取-2】

一般国道9号鳥取西道路は、鳥取市内の交通混雑緩和、交通安全の確保を目的とした、鳥取市本高から同市松原に至る延長 7.0km の道路です。平成24年度は、鳥取市本高から鳥取市松原間の文化財調査、用地買収及び改良、橋梁、トンネル工事を推進し、平成25年度供用(鳥取 IC から鳥取空港 IC(仮称)までの延長1.8km)を目指します

2) 一般国道9号 鳥取西道路Ⅱ期(延長5.9km) 【資料編 鳥取-3】

一般国道9号鳥取西道路Ⅱ期は、鳥取市内の交通混雑緩和、交通安全の確保を目的とした、鳥取市松原から同市気高町下坂本に至る L=5.9km の道路です。平成24年度は、文化財調査、用地買収及び改良、橋梁工事を推進します

3) 一般国道9号 鳥取西道路Ⅲ期(延長6.4km) 【資料編 鳥取-4】

一般国道9号鳥取西道路Ⅲ期は、鳥取市内の交通混雑緩和、交通安全の確保を目的とした、鳥取市気高町下坂本から同市青谷町青谷に至る L=6.4km の道路です。平成24年度は、文化財調査、用地買収及び改良工事を推進します。

○地域高規格道路関係

1) 一般国道9号 駟馳山バイパス(延長7.7km) 【資料編 鳥取-5】

一般国道9号駟馳山バイパスは、岩美郡岩美町から鳥取市福部町間の交通混雑緩和、交通安全の確保を目的とした、岩美郡岩美町本庄から鳥取市福部町湯山に至る L=7.7km の道路です。平成24年度は、用地買収及び改良、橋梁、トンネル工事を推進し、平成25年度の供用を目指します。

○道路管理関連

1) 鳥取29号交差点改良等(服部交差点改良)

【資料編 鳥取-6】

本事業は、事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)の対象区間として、右折時の見通し改善等の対策を実施し、交通事故の低減を図ります。

平成24年度に新規着手し、調査設計、工事を実施し、完成を目指します。

2) 鳥取53号交差点改良等(市瀬歩道整備)

【資料編 鳥取-7】

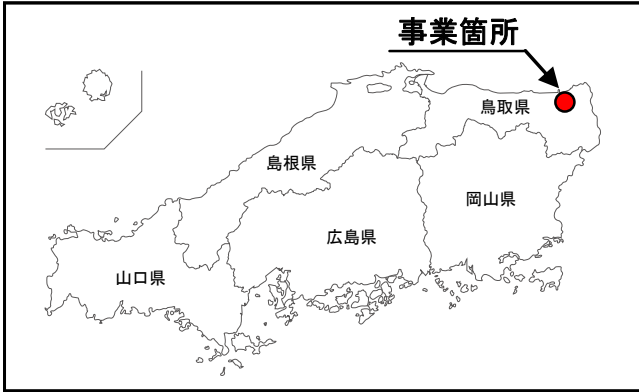
本事業は、事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)の対象区間として、バス停車帯及び歩道の整備を行い、円滑な交通確保、歩行者の安全・安心の向上を図るものです。

平成24年度に新規着手し、調査設計、工事を実施し、事業を推進します。

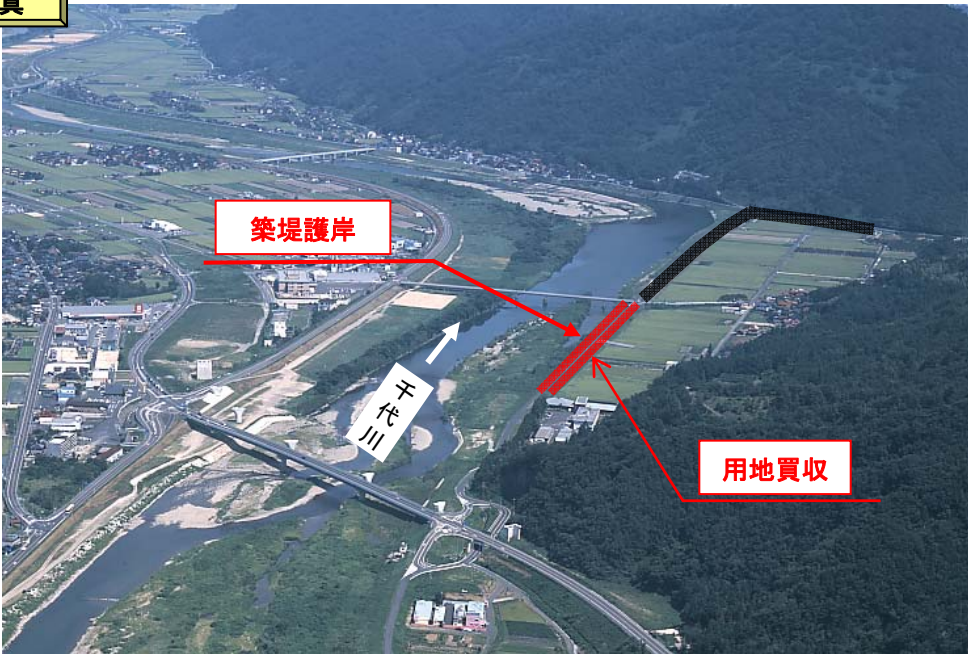
事業推進

せんだい いなつね
千代川右岸稲常地区の堤防は堤防断面不足（カミソリ堤）となっており、流下能力が著しく低くなっています。また、過去には堤防裏法面からの漏水実績もあり、早急に対策を行う必要があることから、堤防の断面拡大と浸透対策を実施するとともに合流点処理を実施します。
平成24年度は千代川本川の用地買収及び築堤護岸工事を推進し、平成25年度の完成を目指します。

位置図



状況写真



期待される整備効果

堤防整備等の実施により、戦後最大相当の出水による浸水被害を解消します。

一般国道9号 鳥取西道路

事業費3,900百万円

鳥取-2

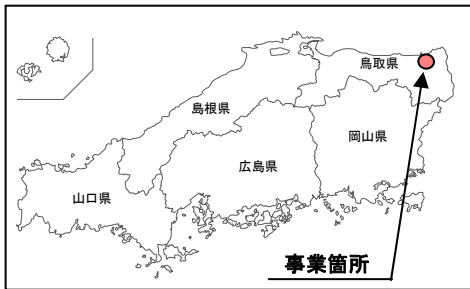
●競争力のある地域経済社会の再構築
○国内交通ネットワークの強化

●交流・連携による一体的で活力のある地域づくり
○都市間の連携強化や都市と中山間地域等の共生

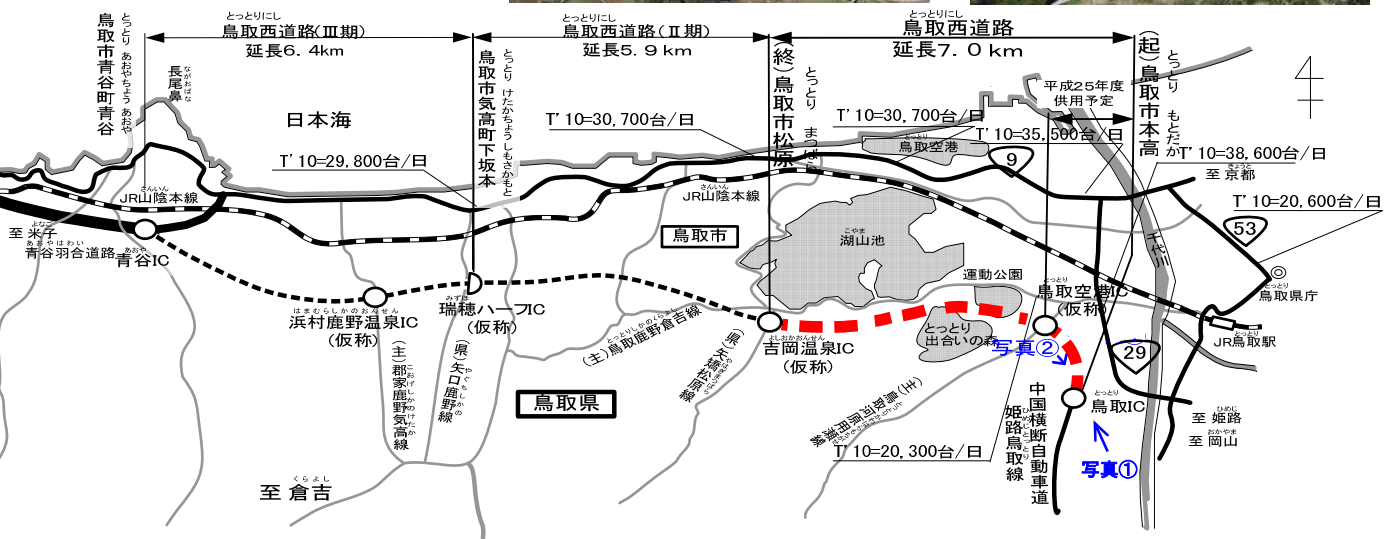
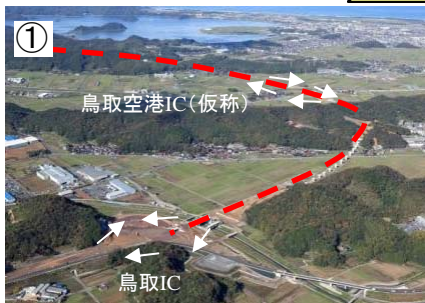
事業推進

一般国道9号鳥取西道路は、鳥取市内の交通混雑緩和、交通安全の確保を目的とした、鳥取市本高から同市松原に至る延長7.0kmの道路です。平成24年度は、鳥取市本高から鳥取市松原間の文化財調査、用地買収及び改良、橋梁、トンネル工事を推進し、平成25年度供用（鳥取ICから鳥取空港IC(仮称)までの延長1.8km)を目指します。

位置図



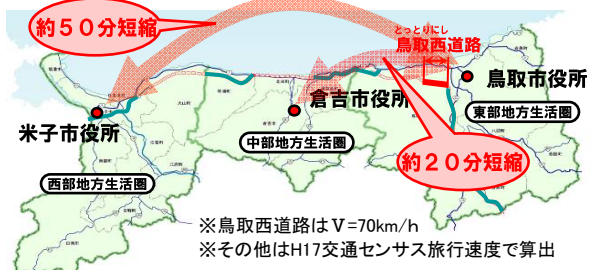
進捗状況写真



期待される整備効果

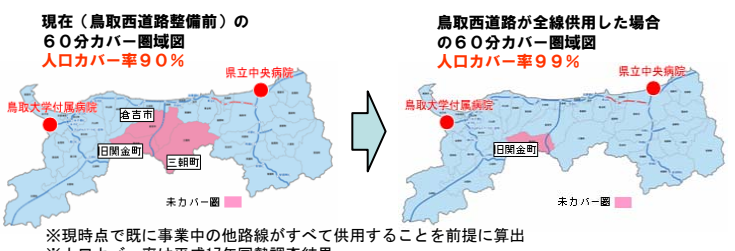
●所要時間の短縮

・鳥取西道路を含む山陰道全線整備により、県内都市間の移動時間は短縮され、地域間の連携強化が期待されます。



●第3次医療施設までのアクセス向上

・鳥取県の三次医療施設は、県立中央病院(鳥取市)と鳥取大学付属病院(米子市)の2カ所であり、鳥取西道路の整備により、県中部の60分カバー圏が大幅に拡大し、救命率の向上が期待される。



※鳥取西道路はV=70km/h
※その他はH17交通センサス旅行速度で算出

※現時点で既に事業中の他路線がすべて供用することを前提に算出
※人口カバー率は平成17年国勢調査結果

●競争力のある地域経済社会の再構築

●交流・連携による一体的で活力のある地域づくり

○国内交通ネットワークの強化

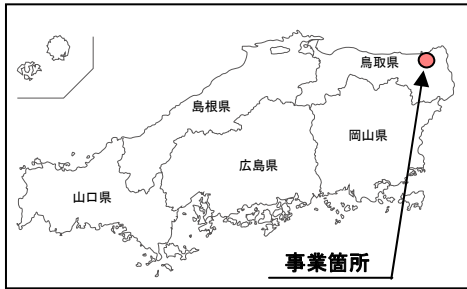
○都市間の連携強化や都市と中山間地域等の共生

事業推進

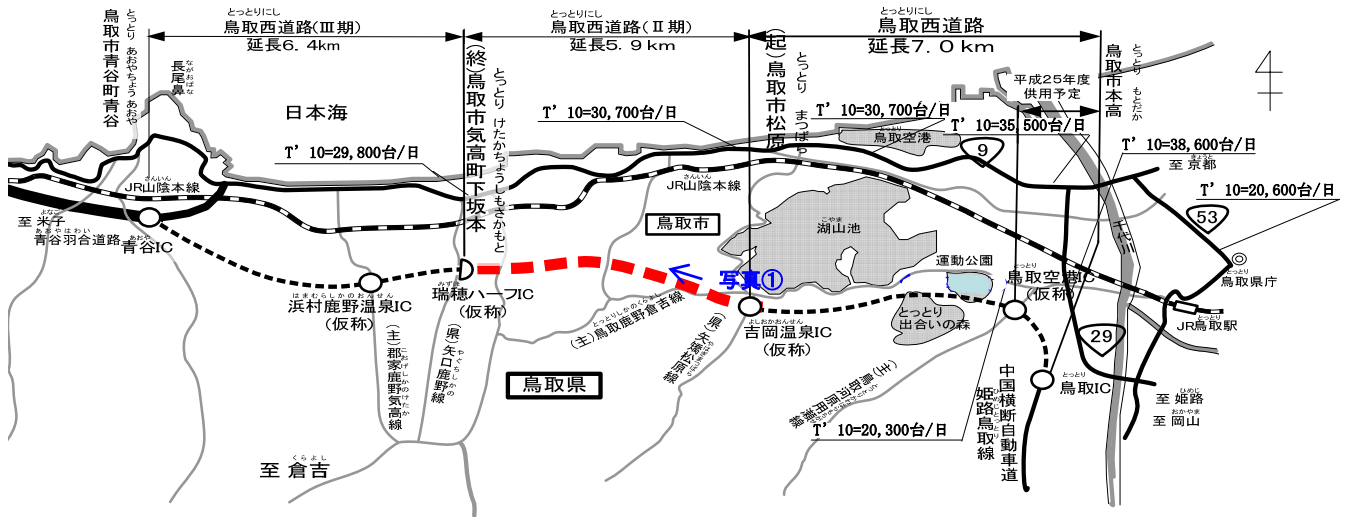
とっとり とっとり とっとり

一般国道9号鳥取西道路Ⅱ期は、鳥取市内の交通混雑緩和、交通安全の確保を目的とした、鳥取まつばら けたかちょうしもさかもと 市松原から同市気高町下坂本に至るL=5.9kmの道路です。平成24年度は、文化財調査、用地買収及び改良、橋梁工事を推進します。

位置図



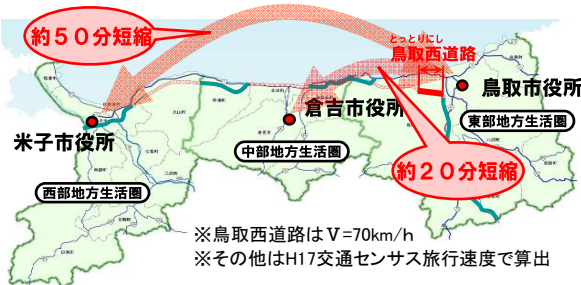
進捗状況写真



期待される整備効果

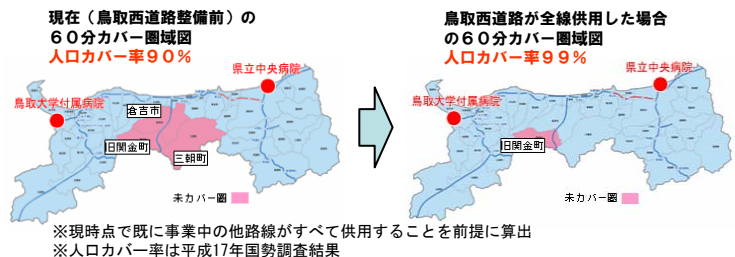
●所要時間の短縮

・鳥取西道路を含む山陰道全線整備により、県内都市間の移動時間は短縮され、地域間の連携強化が期待されます。



●第3次医療施設までのアクセス向上

・鳥取県の三次医療施設は、県立中央病院(鳥取市)と鳥取大学付属病院(米子市)の2カ所であり、鳥取西道路の整備により、県中部の60分カバー圏が大幅に拡大し、救命率の向上が期待される。



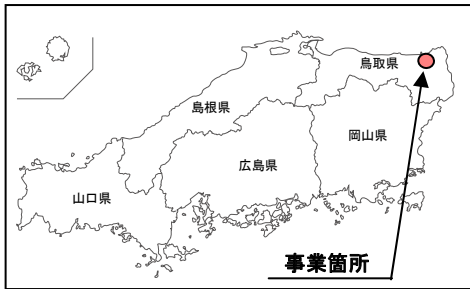
●競争力のある地域経済社会の再構築
○国内交通ネットワークの強化

●交流・連携による一体的で活力のある地域づくり
○都市間の連携強化や都市と中山間地域等の共生

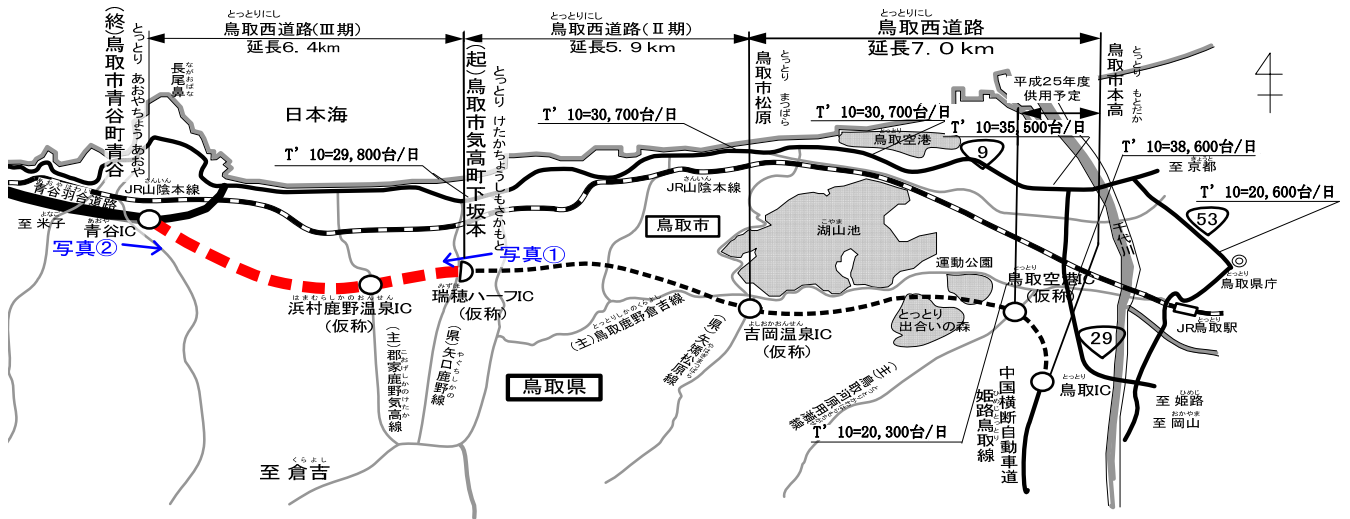
事業推進

一般国道9号鳥取西道路Ⅲ期は、鳥取市内の交通混雑緩和、交通安全の確保を目的とした、鳥取市気高町下坂本から同市青谷町青谷に至るL=6.4kmの道路です。平成24年度は、文化財調査、用地買収を推進します。

位置図



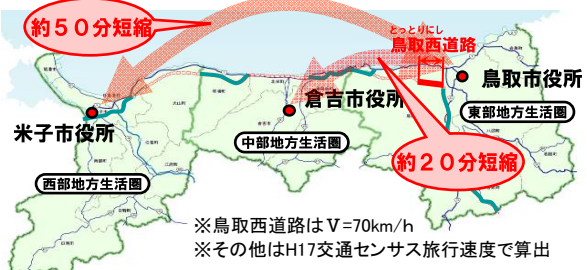
進捗状況写真



期待される整備効果

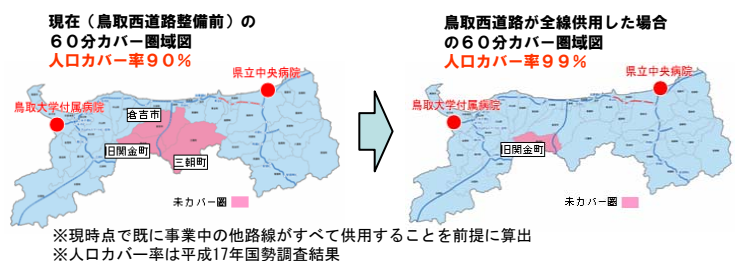
●所要時間の短縮

・鳥取西道路を含む山陰道全線整備により、県内都市間の移動時間は短縮され、地域間の連携強化が期待されます。



●第3次医療施設までのアクセス向上

・鳥取県の三次医療施設は、県立中央病院（鳥取市）と鳥取大学付属病院（米子市）の2カ所であり、鳥取西道路の整備により、県中部の60分カバー圏が大幅に拡大し、救命率の向上が期待される。

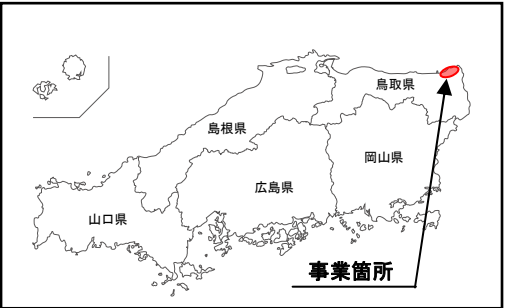


●競争力のある地域経済社会の再構築 ●交流・連携による一体的で活力のある地域づくり
 ○国内交通ネットワークの強化 ○都市間の連携強化や都市と中山間地域等の共生

事業推進

一般国道9号駒馳山バイパスは、岩美郡岩美町から鳥取市福部町間の交通混雑緩和、交通安全の確保を目的とした、岩美郡岩美町本庄から鳥取市福部町湯山に至るL=7.7kmの道路です。
 平成24年度は、用地買収及び改良、橋梁、トンネル工事を推進し、平成25年度の供用を目指します。

位置図

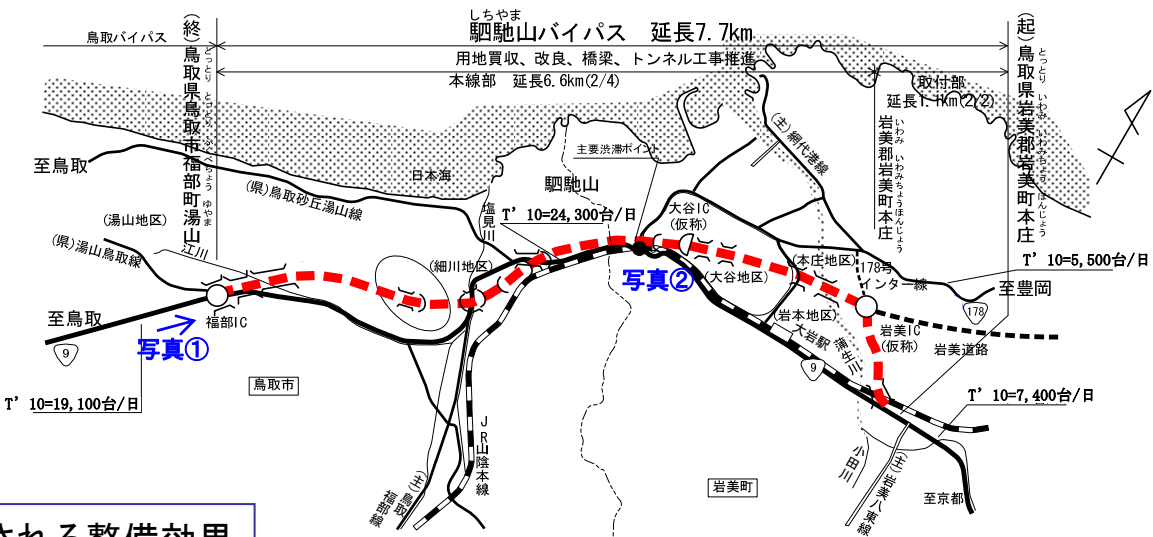


進捗状況写真



福部IC付近から東方面を望む

駒馳山バイパス駒馳山トンネル工事



期待される整備効果

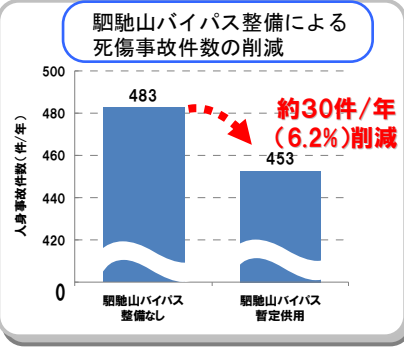
安全で信頼性の高い道路ネットワークの確保

交通事故状況写真

●急勾配で急カーブが連続し、事故が多発する駒馳山峠付近



※各時点の交通量配分結果をもとに、交通量を用いて算出
 ※人身事故数算定式：交通事故減少便益の原単位の算出方法(H20年11月 国土交通省)
 ※死傷事故数算出対象範囲は、費用便益分析対象範囲と同じ



所要時間の短縮

駒馳山バイパスの整備により、鳥取空港から浦富海岸間の所要時間が4分短縮されます。

鳥取空港	[現状] 国道9号経由	39分	浦富海岸
	[供用後] 駒馳山バイパス経由	35分	

※駒馳山バイパスが全線整備された場合。
 駒馳山バイパスはV=70km/h、その他はH17交通センサス旅行速度で算出

はっとり (服部交差点改良)

完成予定

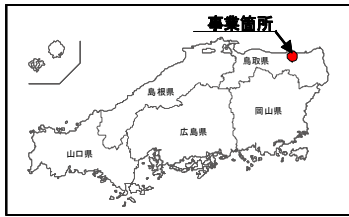
- 安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
- 陸上及び海上における交通安全の向上

国道29号の鳥取市服部に位置する当該交差点では、右折車両と直進車両の出会い頭事故や、交差点直近での追突事故が発生しています。

本事業は、事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)の対象区間として、右折時の見通し改善等の対策を実施し、交通事故の低減を図ります。

平成24年度に新規着手し、調査設計、工事を実施し、完成を目指します。

【位置図】

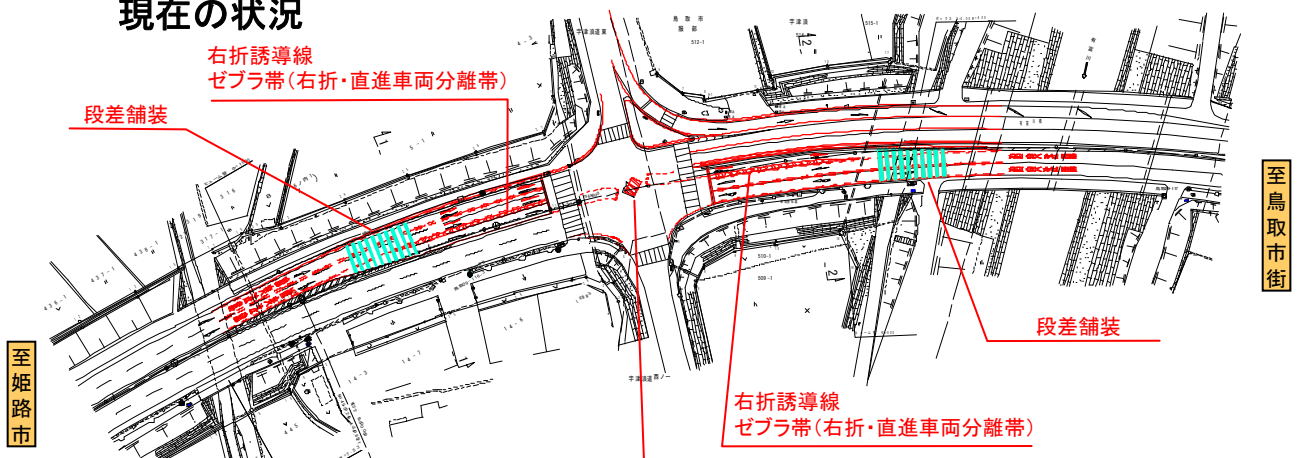


【平面図】



至 姫路市

現在の状況



現況

2850	1800	500	3500	3500	3000	400	3500	3500	3500	500	3400
歩道	歩道		↑	↑	↑	歩道	歩道	歩道	歩道	歩道	歩道

(単位:mm)

計画

2850	1800	500	3250	3250	1500	3000	500	3250	3250	3250	500	3400
歩道	歩道		↑	↑	↑	歩道	歩道	歩道	歩道	歩道	歩道	歩道

(単位:mm)

期待される整備効果

右折時の見通し改善対策等の実施により、交通事故の減少が期待されます。

鳥取53号交差点改良等 いちのせ (市瀬歩道整備)

事業費 87百万円

鳥取-7

- 安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
- 陸上及び海上における交通安全の向上

新規着手

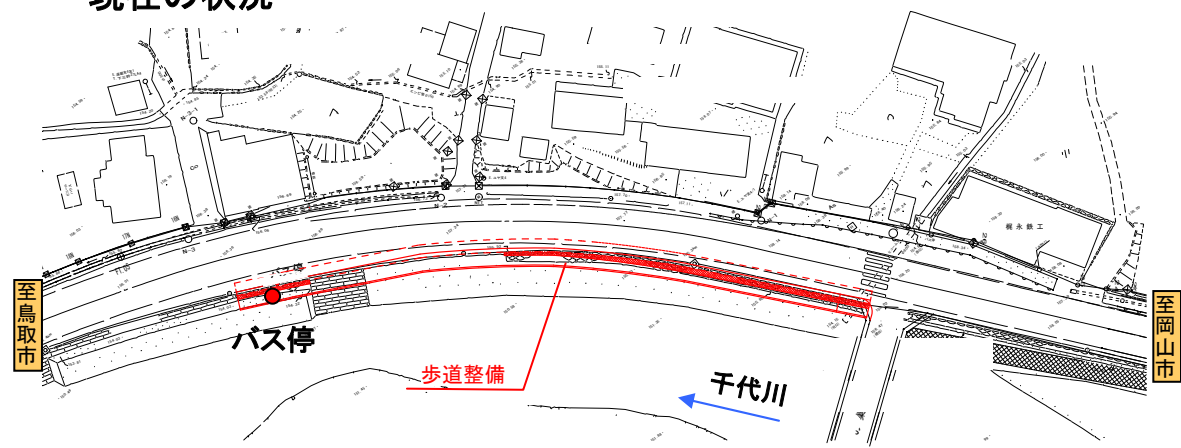
国道53号の八頭町市瀬に位置する当該箇所では、バス停車帯の幅が狭く、走行車両の障害になっています。また、バス停までの歩道がないため、バス利用者は路肩を通行している状況です。本事業は、事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)の対象区間として、バス停車帯及び歩道の整備を行い、円滑な交通確保、歩行者の安全・安心の向上を図るものです。平成24年度に新規着手し、調査設計、工事を実施し、事業を推進します。

【平面図】

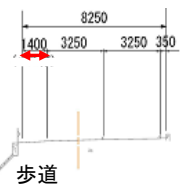
【位置図】



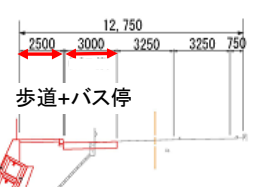
現在の状況



現況



計画



(単位:mm)

(単位:mm)

期待される整備効果

バス停車帯及び歩道の設置により、円滑な交通確保、歩行者の安全確保を図ります。

平成24年度事業の概要

倉吉河川国道事務所

1. 河川事業

1) 天神川一般河川改修事業

①三朝町本泉地先（河戸橋改築）

【資料編 倉吉－1】

三朝町の中心地域入り口部に位置する本箇所は、河戸橋による洪水の堰上げ及び上下流の河道断面不足により流下能力が不足しています。このため、鳥取県が進める橋梁改築計画と連携し、河戸橋の架替えを実施するとともに、流下能力向上のための河道掘削を実施します。

平成24年度は、事業の完成を目指し、旧橋撤去、河道掘削を実施します。

②倉吉市秋喜地先（天神川河川防災ステーション）

【資料編 倉吉－2】

天神川水系は急流河川でもあり、一度氾濫すると県・市・町の行政庁舎等水防拠点浸水する恐れがあり、水防資材も各地に点在しているなど、洪水時の迅速な対応に課題を持っていました。このため、平成22年度より、洪水時の水防拠点となる河川防災ステーションの整備を実施しています。

平成24年度は、事業の完成を目指し、場内整備、車両庫の整備を実施します。

2. 砂防事業

1) 野添5号砂防堰堤

【資料編 倉吉－3】

関金町野添地先泉谷川において、土石及び流木被害を防止する基幹施設として、平成21年度より事業着手しています。平成24年度は砂防堰堤工事を実施します。

2) 穴鴨3号砂防堰堤

【資料編 倉吉－4】

三朝町穴鴨地先余川谷川において、土石及び流木被害を防止する基幹施設として、平成22年度より事業着手しています。平成24年度は、事業の完成を目指し、砂防堰堤工事を実施します。

3) 田代砂防堰堤

【資料編 倉吉－5】

三朝町田代地先田代川において、土石及び流木被害を防止する基幹施設として、平成23年度より事業着手しています。平成24年度は、砂防堰堤工事に着手します。

4) 大谷砂防堰堤

【資料編 倉吉－6】

三朝町大谷地先下大谷谷川において、土石及び流木被害を防止する基幹施設として、平成24年度より新規事業着手します。平成24年度は、用地買収に着手します。

5) 吉田砂防堰堤

【資料編 倉吉－7】

三朝町吉田地先天谷川において、土石及び流木被害を防止する基幹施設として、

平成24年度より新規事業着手します。平成24年度は、用地買収に着手します。

3. 道路事業

○高規格幹線道路関係

1) 中山・名和道路、名和・淀江道路

【資料編 倉吉-8】

一般国道9号中山・名和道路、名和・淀江道路は、西伯郡大山町周辺における交通混雑の緩和及び交通安全の確保等を目的とした、西伯郡大山町八重から同町安原に至る延長4.3kmの道路と12.1kmの道路です。

平成24年度は、文化財調査、改良、橋梁、舗装工事を推進し、平成25年度の全線供用を目指します。

○管理関連

1) 鳥取9号交差点改良等（塩津地区交差点改良）

【資料編 倉吉-9】

本事業は、事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）の対象区間です。

当該箇所は、3つの交差点が連続しており、右折車が多いものの右折車線がないため右折待ち車両への追突事故が多発している状況です。

平成24年度は、交通事故の削減を図るため、右折車線設置工事を推進し、完成を目指します。

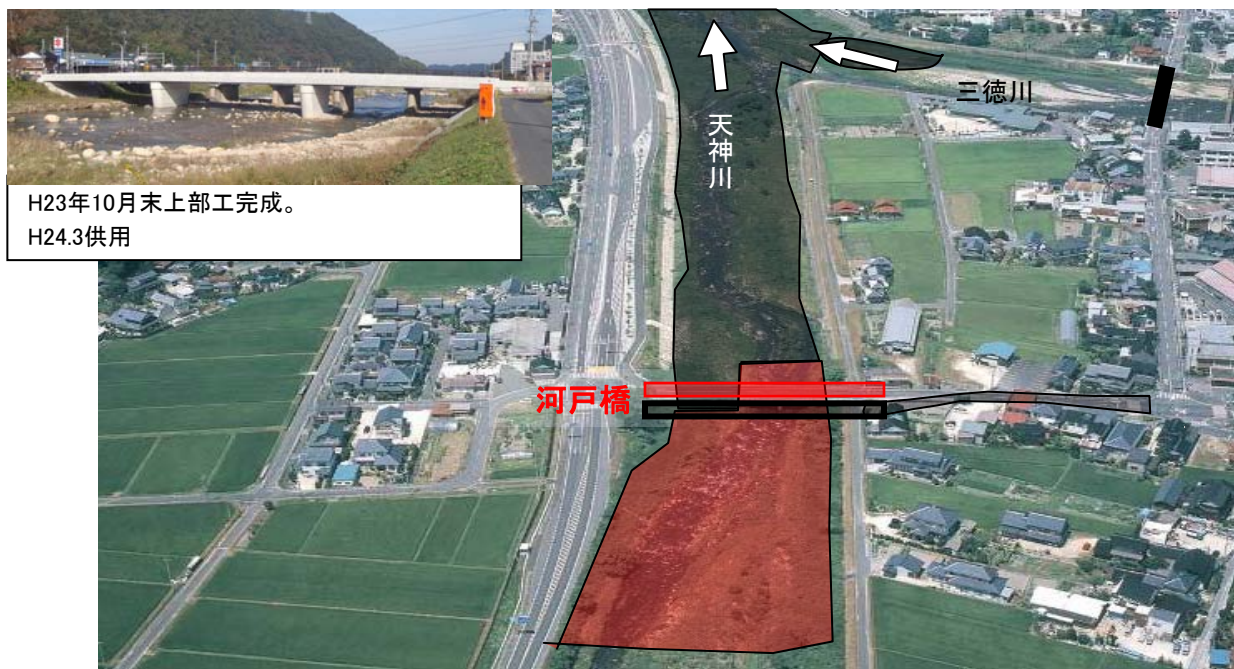
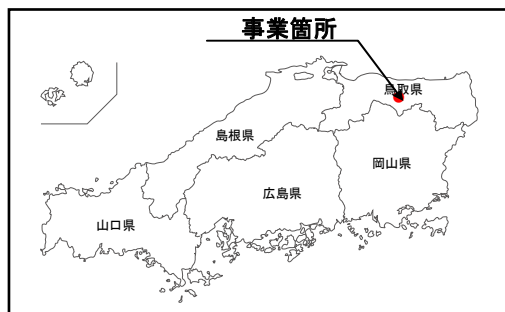
●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
○災害の防止・軽減

完成予定

【事業概要】

三朝町の中心地域入り口部に位置する本箇所は、かわどばし河戸橋の堰上げ及び上下流の河道断面不足により流下能力不足を生じており、平成10年10月出水においては河戸橋を越流し渡河不能、越流水が民家へ流れ込むなどの被害を受けていることから、鳥取県が進める橋梁改築計画と連携し、河戸橋の架替えを実施するとともに、流下能力向上のための河道掘削を実施しています。

平成24年度は、事業の完成を目指し、旧橋撤去、河道掘削を実施します。



期待される整備効果

当事業の完了により、戦後最大洪水である昭和34年伊勢湾台風洪水と同規模な洪水が再び発生したとしても、家屋の浸水被害の防止が図られます。

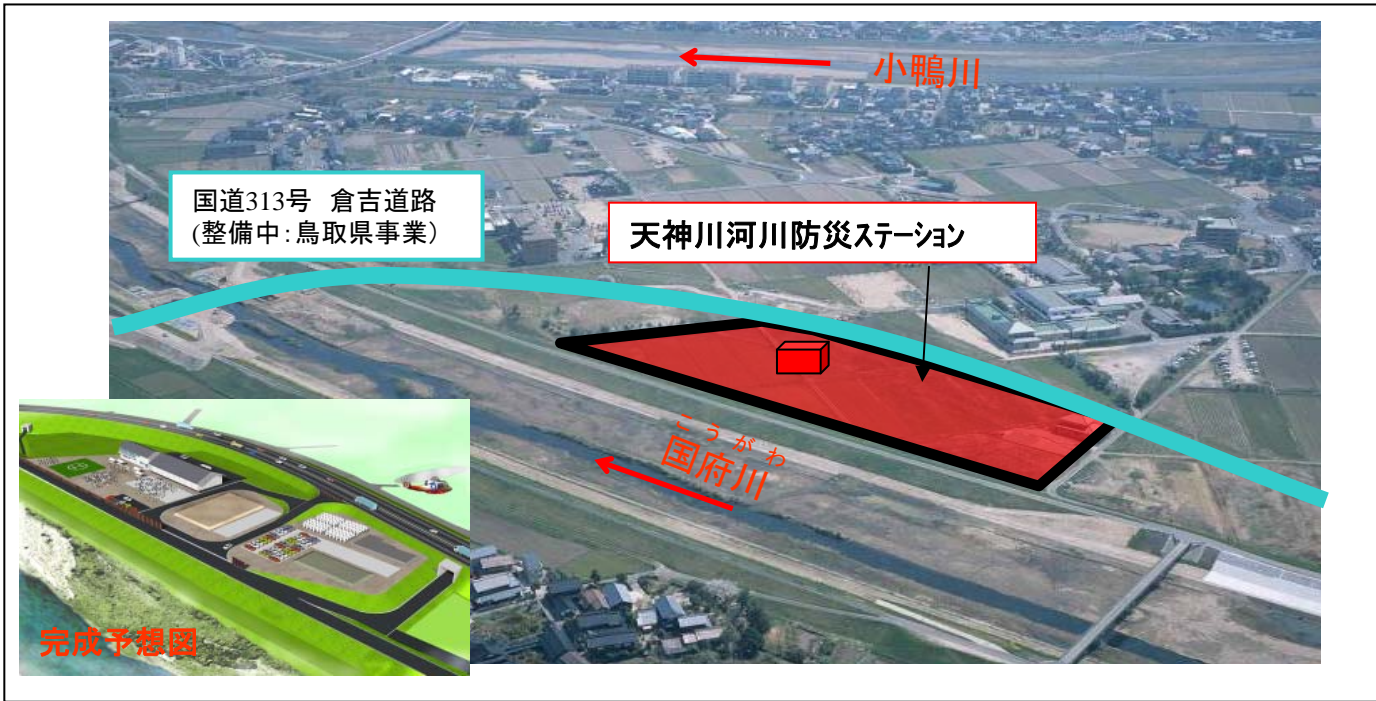
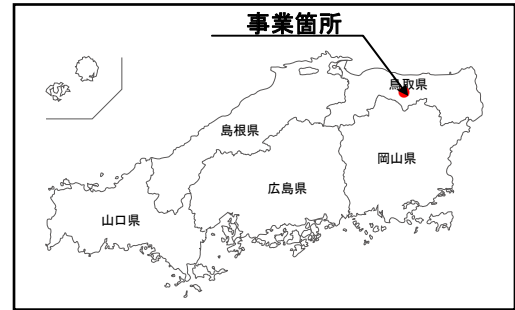
●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
○災害の防止・軽減

完成予定

【事業概要】

天神川水系は急流河川でもあり、一度氾濫すると県・市・町の行政庁舎等水防拠点が浸水する恐れがあり、水防資材も各地に点在しているなど、洪水時の迅速な対応に課題を持っていたことから、平成22年度より、洪水時の水防拠点となる河川防災ステーションの整備を実施しています。

平成24年度は、事業の完成を目指し、場内整備、車両庫の整備を実施します。



期待される整備効果

当事業の完了により、災害時には、隣接する水防センター(整備主体:倉吉市)との連携により、迅速かつ的確な災害対応活動を実施することが可能となります。

大山山系（天神川水系）砂防事業（倉吉市野添地区）

倉吉-3

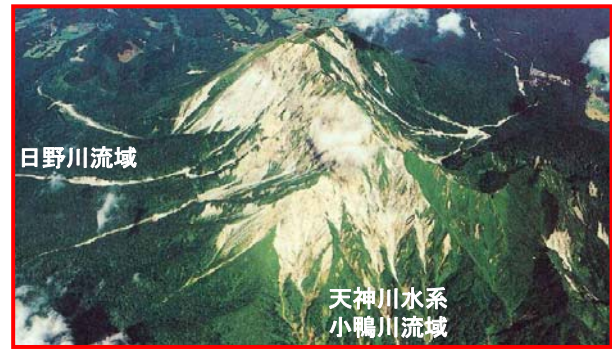
事業費389百万円
※天神川水系全体

●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
○災害の防止・軽減

事業推進

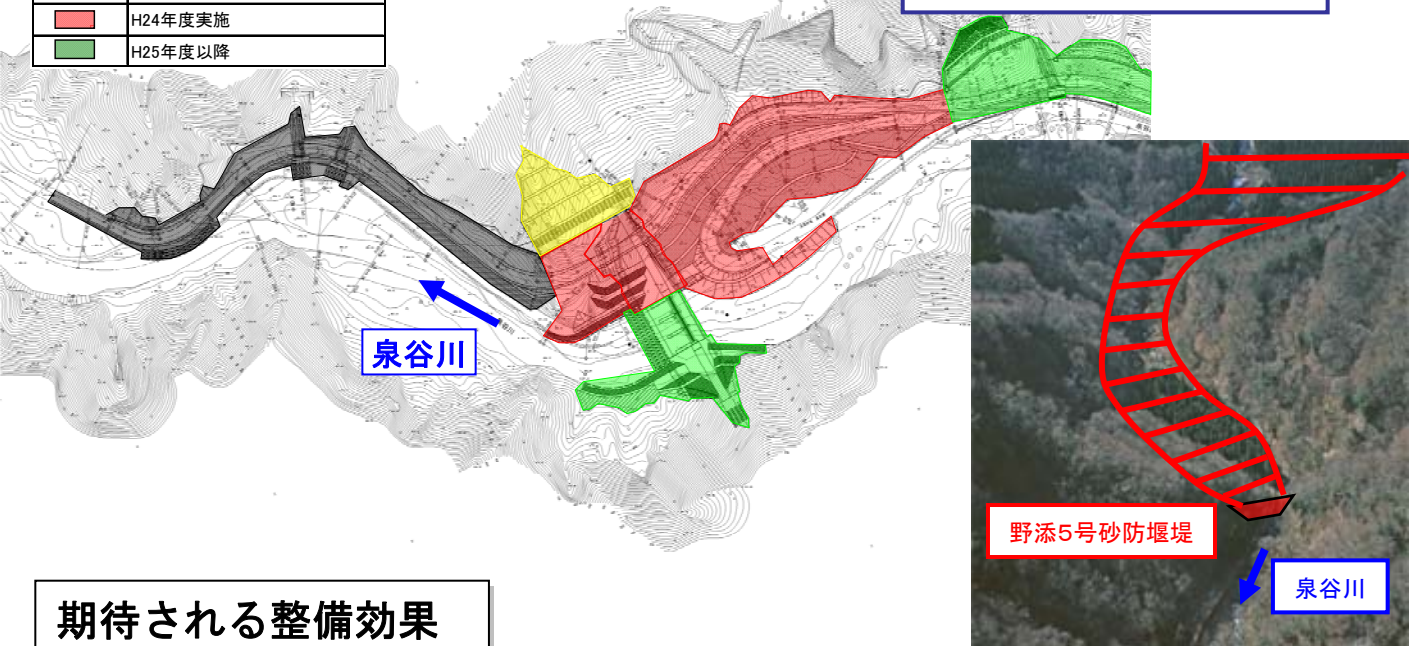
【事業概要】

野添5号砂防堰堤は、下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全するための基幹施設として、小鴨川の支川泉谷川に計画した砂防堰堤（H=14.5m、L=74.0m）です。泉谷川は、土砂生産が盛んな大山の重荒廃地域であるため、優先的に整備を進めており、平成21年度から事業に着手しています。平成28年度以降の完成を予定しており、平成24年度は砂防堰堤工事を実施します。



荒廃の著しい大山源頭部の状況

凡例	
■	H22年度迄実施
■	H23年度実施
■	H24年度実施
■	H25年度以降



期待される整備効果

泉谷川からの土砂流出を防ぐとともに、直下流の野添地区をはじめ、下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全します。

大山山系（天神川水系）砂防事業（三朝町穴鴨地区）

倉吉-4

事業費389百万円

※天神川水系全体

●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
○災害の防止・軽減

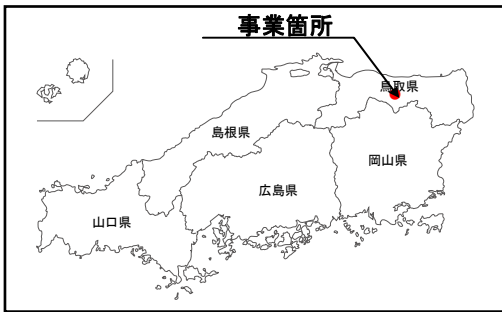
完成予定

【事業概要】

穴鴨3号砂防堰堤は、下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全するための基幹施設として、天神川の支川余川谷川に計画した砂防堰堤（H=9.5m, L=47.0m）です。

当該地域では、平成10年台風10号により大規模な土砂災害が発生しており、再度災害を防止するため、平成22年度から事業に着手しています。

平成24年度の完成を予定しており、平成24年度は砂防堰堤工事を実施します。



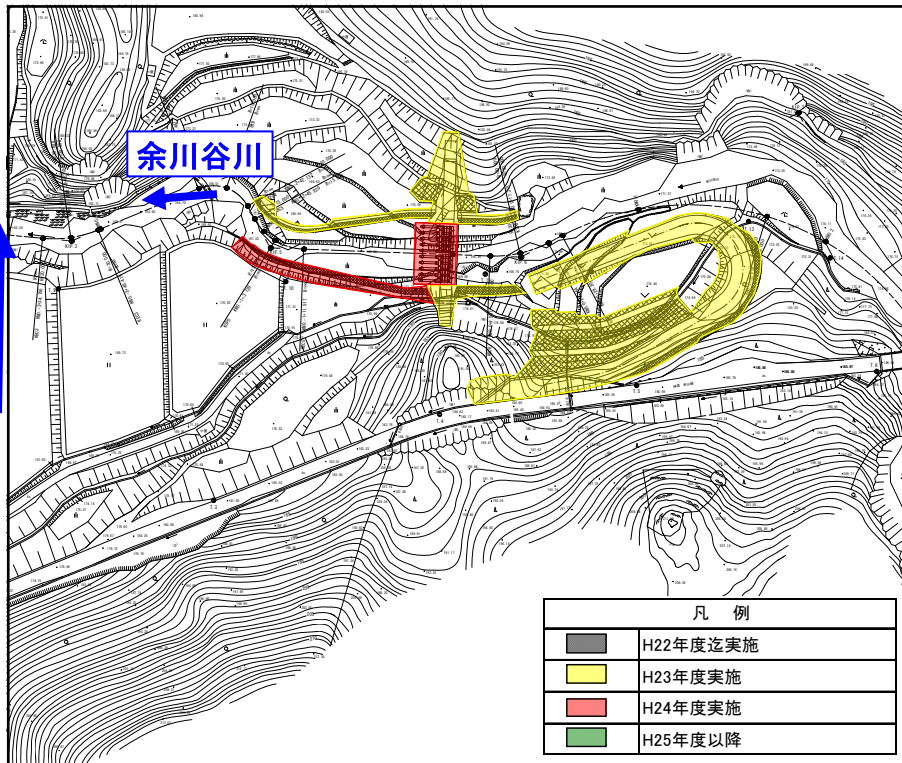
平成10年台風10号による被災



穴鴨3号付近河床を埋めた土砂
（穴鴨大渡橋）



平常時（復旧後）



期待される整備効果

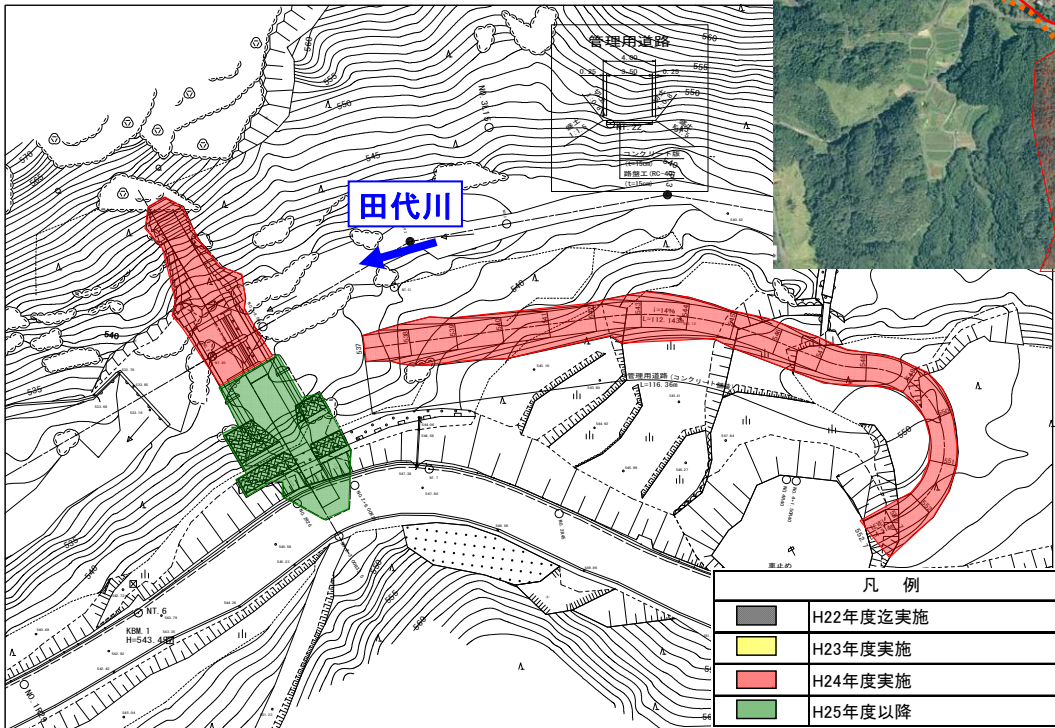
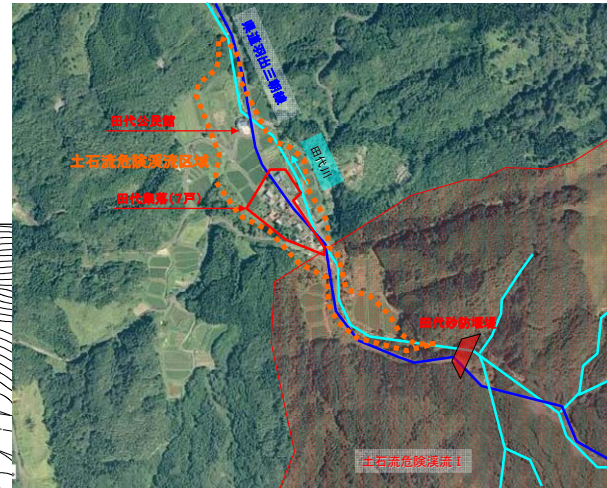
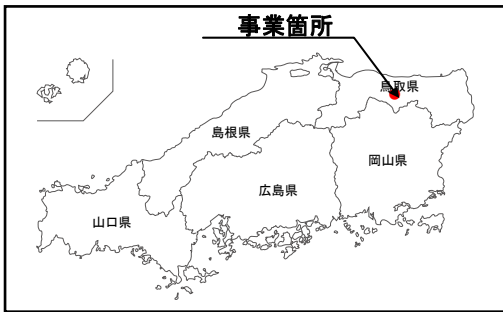
余川谷川からの土砂流出を防ぐとともに、下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全します。

●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
○災害の防止・軽減

事業推進

【事業概要】

田代砂防堰堤は、下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全するための基幹施設として、天神川の支川田代川に計画した砂防堰堤(H=9.0m, L=50.5m)です。
当流域の下流地域では、平成10年台風10号により大規模な土砂災害が発生しており、下流域における再度災害を防止するために平成23年度から事業に着手しています。
平成25年度の完成を予定しており、平成24年度は砂防堰堤工事に着手します。



期待される整備効果

田代川からの土砂流出を防ぐとともに、直下流の田代地区をはじめ、下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全します。

大山山系（天神川水系）砂防事業（三朝町大谷地区）

倉吉-6

事業費389百万円
※天神川水系全体

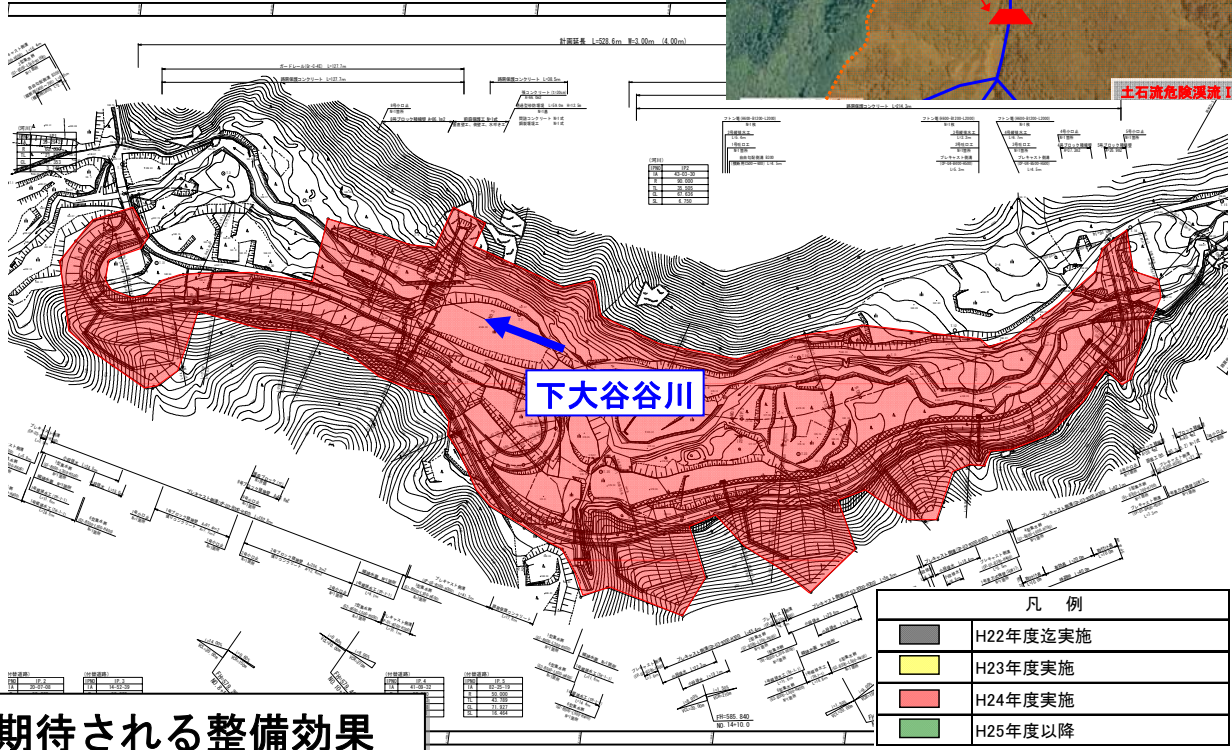
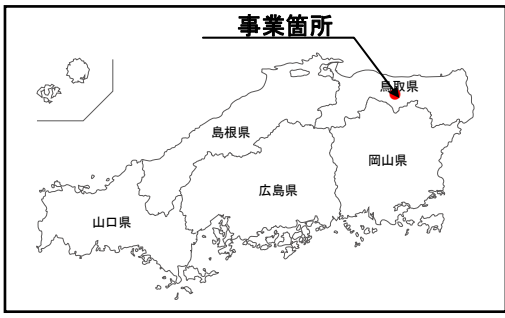
み さ さ おおたに

●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
○災害の防止・軽減

事業推進

【事業概要】

大谷砂防堰堤は、下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全するための基幹施設として、天神川の支川下大谷谷川に計画した砂防堰堤(H=12.5m, L=59.0m)です。
当流域の下流地域では、平成10年台風10号により大規模な土砂災害が発生しており、下流域における再度災害を防止するために平成24年度から新規着手します。
平成27年度の完成を予定しており、平成24年度は用地買収に着手します。



凡 例	
■	H22年度迄実施
■	H23年度実施
■	H24年度実施
■	H25年度以降

期待される整備効果

下大谷谷川からの土砂流出を防ぐとともに、直下流の大谷地区をはじめ、下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全します。

大山山系（天神川水系）砂防事業（三朝町吉田地区）

事業費389百万円

※天神川水系全体

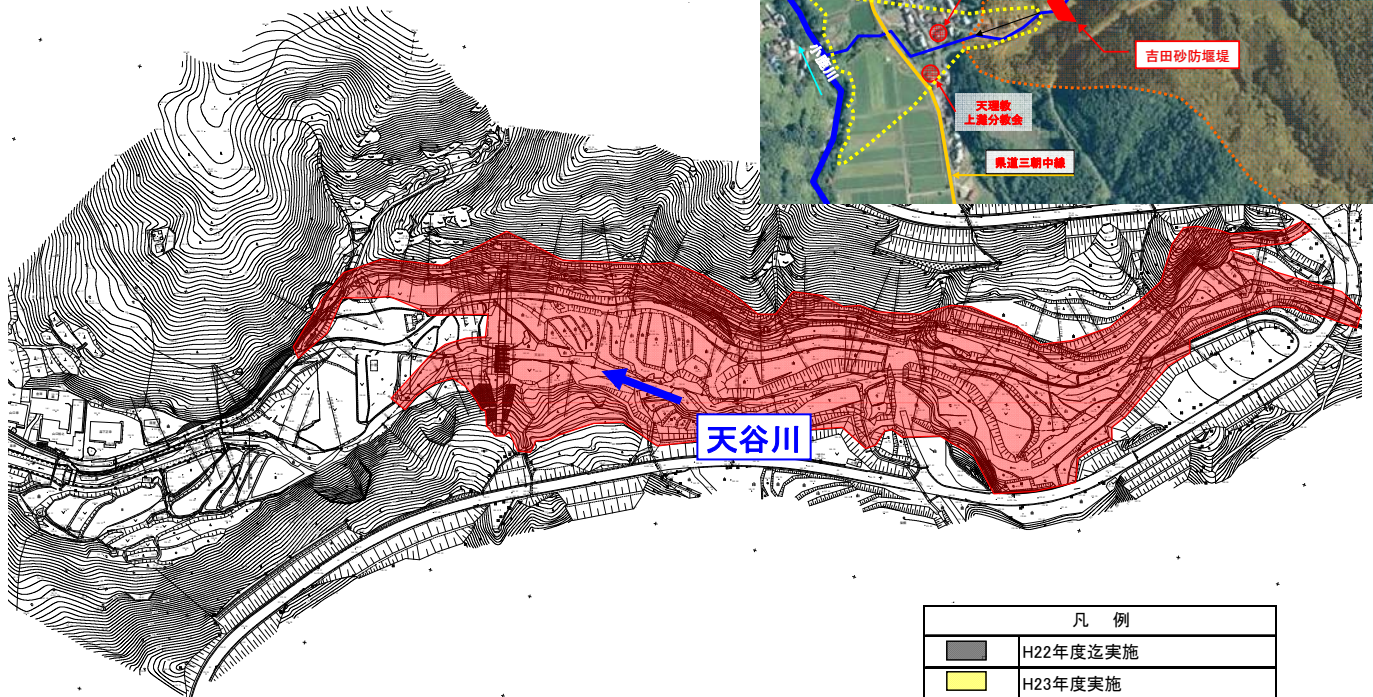
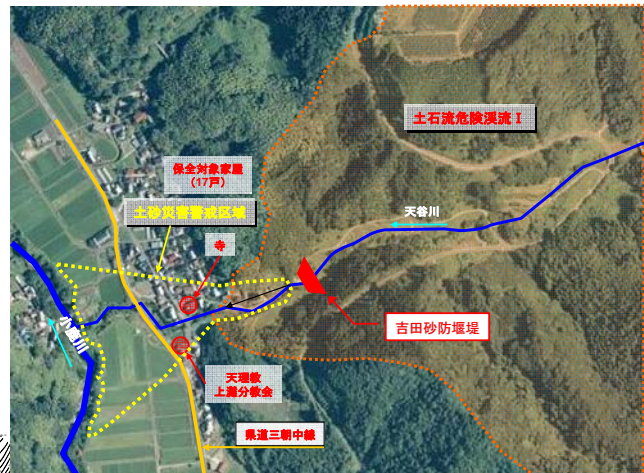
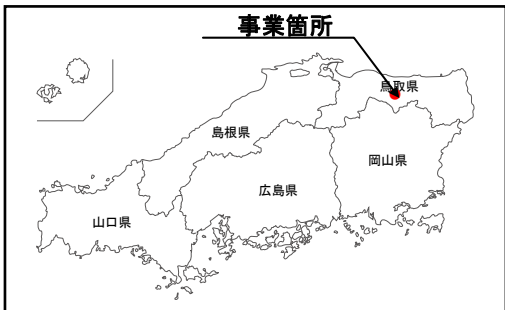
●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
○災害の防止・軽減

事業推進

【事業概要】

吉田砂防堰堤は、三徳川下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全するための基幹施設として、小鹿川の支川天谷川に計画した砂防堰堤（H=12.5m, L=81.5m）です。周辺地域では、平成10年台風10号により大規模な土砂災害が発生しており、三朝温泉をはじめとする下流域を保全するために平成24年度から新規着手します。

平成27年度の完成を予定しており、平成24年度は用地買収に着手します。



凡 例	
■	H22年度迄実施
■	H23年度実施
■	H24年度実施
■	H25年度以降

期待される整備効果

天谷川からの土砂流出を防ぐとともに、直下流の吉田地区をはじめ、下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全します。

一般国道9号
一般国道9号

中山・名和道路
名和・淀江道路

事業費2,700百万円
事業費2,200百万円

倉吉-8

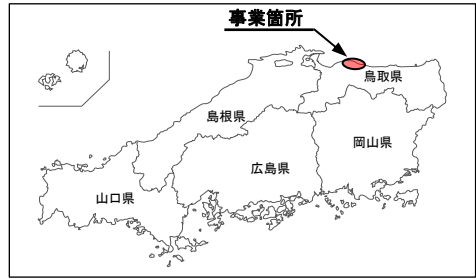
- 競争力のある地域経済社会の再構築 ○国内交通ネットワークの強化
- 交流・連携による一体的で活力のある地域づくり ○都市間の連携強化や都市と中山間地域等の共生

事業推進

一般国道9号中山・名和道路、名和・淀江道路は、西伯郡大山町周辺における交通混雑の緩和及び交通安全の確保等を目的とした、西伯郡大山町八重から同町安原に至る延長4.3kmの道路と12.1kmの道路です。

平成24年度は、文化財調査、改良、橋梁、舗装工事を推進し、平成25年度の全線供用を目指します。

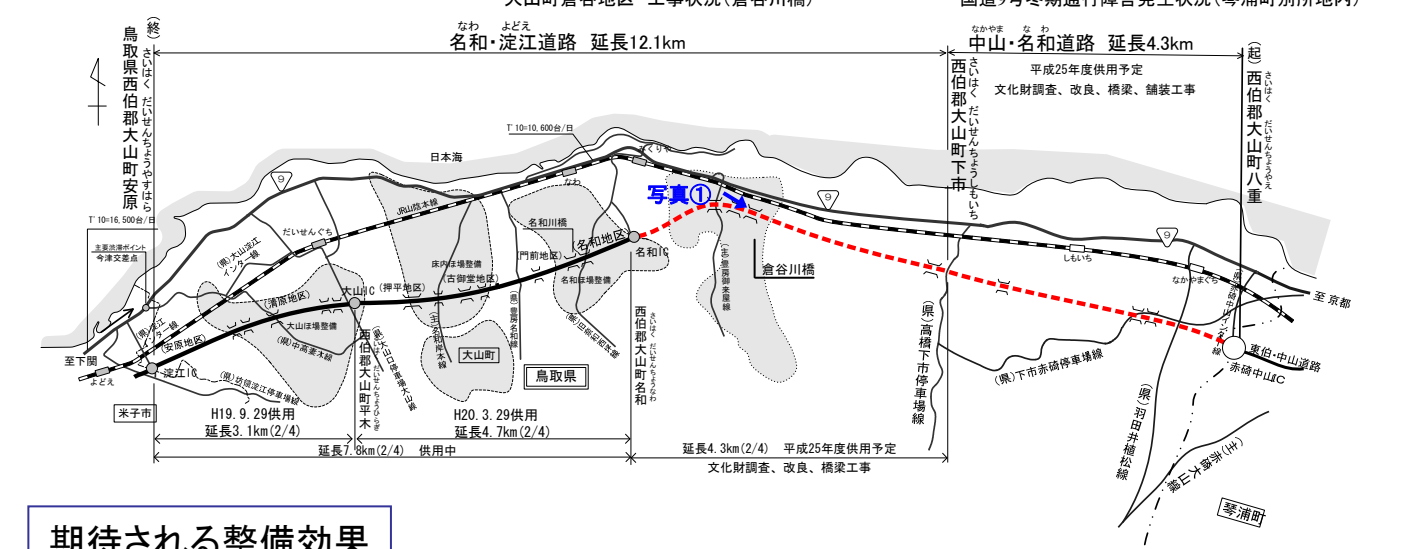
位置図



進捗状況写真



現道状況 (通行障害)



期待される整備効果

●走行時間短縮による物流効率化の支援
鳥取県中部及び沿線の工業団地から境港や米子空港までの所要時間が短縮され、物流の効率化が期待されます。

●代替路線の確保による道路網の信頼性向上
山陰道が迂回路として機能することにより、東西交通の確保及び復旧・救援作業を迅速に行う事が可能になり、現道の早期復旧により生活面・経済面の影響が軽減されます。



鳥取9号交差点改良等(塩津地区交差点改良)

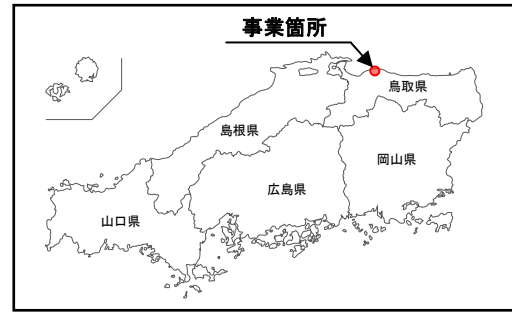
事業費141百万円

- 安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
- 陸上及び海上における交通安全の向上

完成予定

西伯郡大山町に位置する当該箇所は、3つの交差点が連続しており、JR下市駅、中山小学校等への右折車が多いものの、右折車線がないため右折待ちの車両への追突事故が多発している状況です。

平成24年度は、交通事故の削減を図るため、右折車線設置工事を推進し、完成を目指します。



国道9号鳥取県西伯郡大山町地内

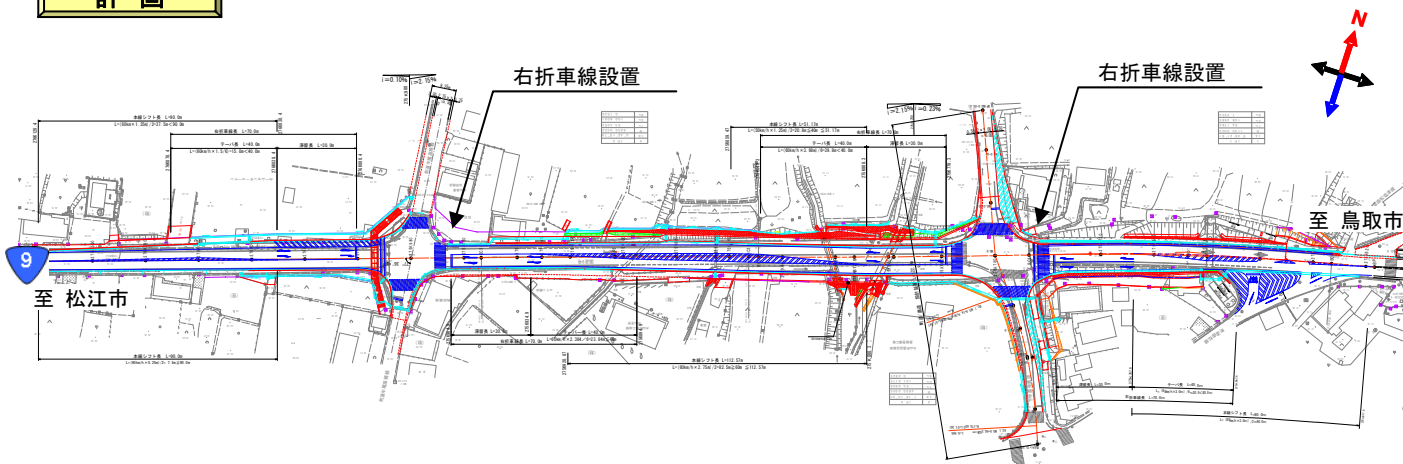
位置図

現況写真



松江市方面から鳥取市方面を望む

計画



期待される整備効果

- ・右折車線の設置により、追突事故を防止し、交通事故発生の低減を図ります。

平成24年度事業の概要

日野川河川事務所

1. 河川事業

- 1) 日野川一般河川改修事業(青木地区) 【資料編 日野川-1】
日野川支川法勝寺川の流下能力向上を図るため、平成23年度より米子市青木地区の改修工事に着手しており、24年度も引き続き河道掘削工事を促進します。

2. 砂防事業

- 1) 大山山系日野川 三の沢砂防堰堤 【資料編 日野川-2】

江府町大河原地内において、荒廃の進む小江尾川こえびがわの整備として、堰堤本体工事を促進します。

- 2) 大山山系日野川 須郷砂防堰堤

江府町大河原地内において、荒廃の進む小江尾川こえびがわの整備として、堰堤本体工事を促進します。

- 3) 大山山系日野川 林ヶ原砂防堰堤

伯耆町林ヶ原地内において、荒廃の進む清山川せいやまがわの整備として、堰堤工事に必要となる用地買収を促進します。

- 4) 大山山系日野川 日光砂防堰堤

江府町日光地内において、荒廃の進む白水川しらみがわの整備として、堰堤本体設計を促進します。

3. 海岸事業

- 1) 皆生海岸保全施設整備事業 【資料編 日野川-3】

皆生工区において、沖合侵食により機能低下した離岸堤の機能回復を図るため、人工リーフ(砂の安定)整備を促進するとともに、富益工区から境港工区においてサンドリサイクル(砂の循環)による保全対策を促進します。

4. ダム事業

- 1) 菅沢ダム堰堤改良事業 【資料編 日野川-4】

平成14年度から実施中の堰堤改良事業について、小規模放流設備工を完成し、事業を完了します。

※事業費は日野川水系全体

●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
○災害の防止・軽減

事業推進

【事業概要】

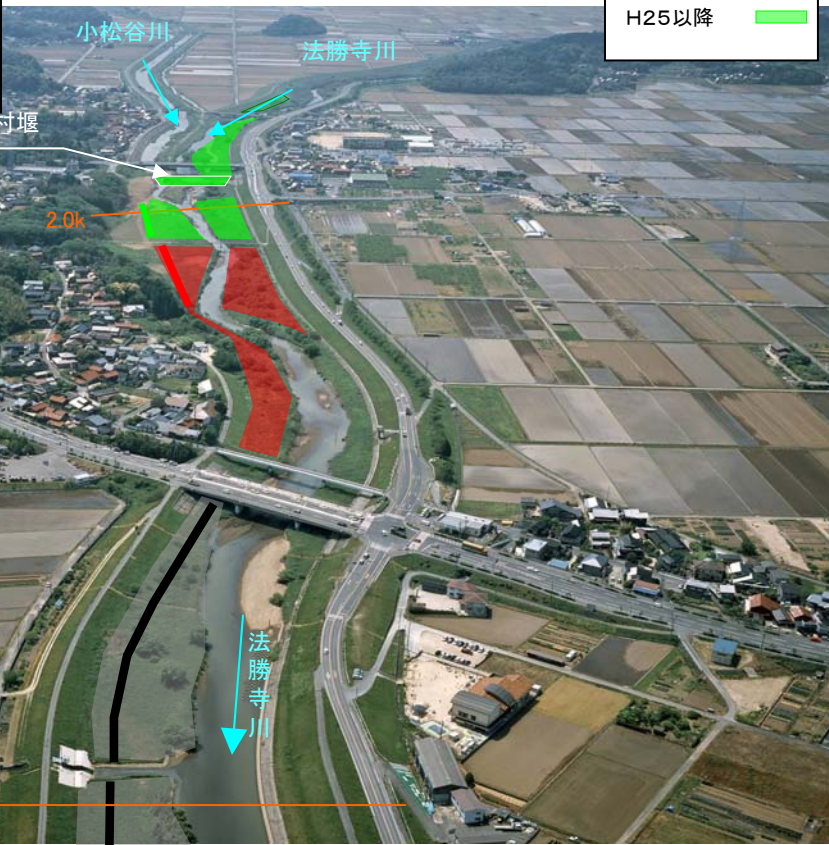
ほっしょうじ がわ

こまつたにがわ

しかそん

日野川支川法勝寺川の青木地区では支川小松谷川合流点部の背割堤、四ヶ村堰により流下能力が低く、計画高水相当の洪水が発生した場合には、米子市街地(県内人口第2位)に甚大な被害が発生する恐れがあります。また合流点付近では過去10年の内に内水被害が4回発生し、河道掘削及び河積阻害となっている固定堰の改築を実施することにより流下能力の向上を図ることで、河川の水位低減による内水被害の軽減にも寄与します。

平成24年度は、引き続き河道掘削等を促進します。



期待される整備効果

昭和34年9月の戦後最大洪水に対する流下能力を確保することで、米子市市街地への浸水被害の軽減を図るとともに、青木地区における内水被害の軽減が図られます。

※事業費は日野川水系全体

●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり

○災害の防止・軽減

事業推進

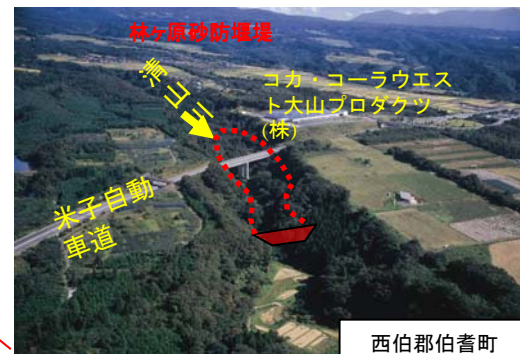
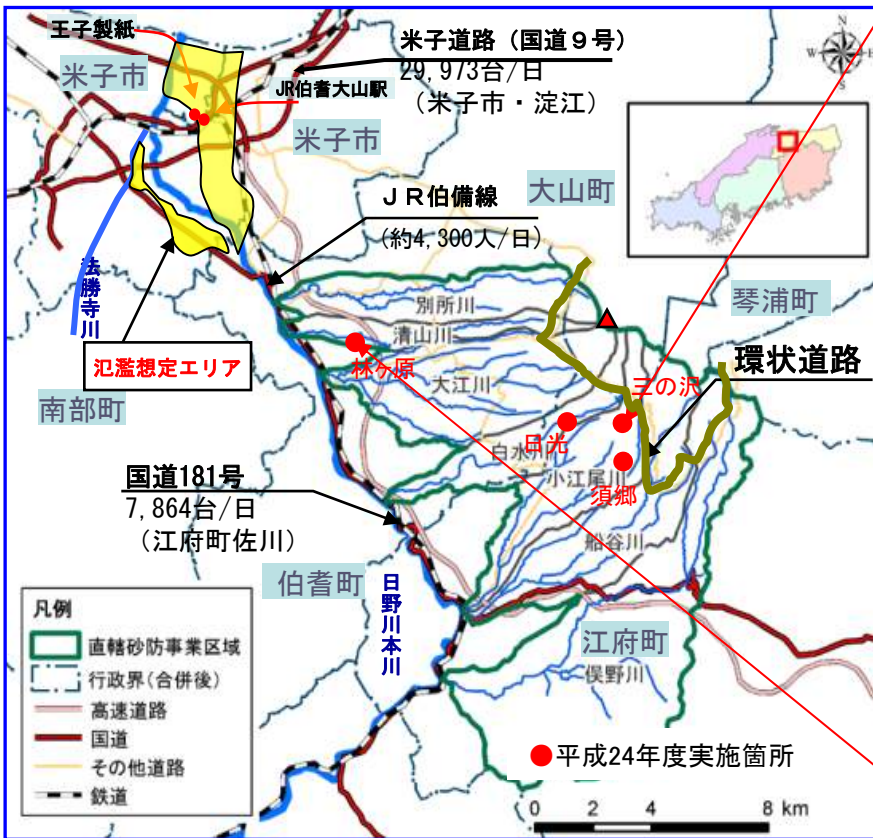
中国地方随一の高峰である大山は、解体期を迎え源頭部の崩壊が著しく、山麓斜面には脆弱な火山堆積物や風化花崗岩が広く分布しており、土砂流出による災害発生の危険性が高い状況にあります。

大山山系直轄砂防事業は、砂防えん堤等の整備により、下流域を土砂流出に伴う洪水氾濫から保全するとともに、下流の人家等を土石流の被害から保全します。

大山の源頭部は崩壊地が広がっているため、たびたび土砂流出を生じている。



大山環状道路の土砂流出状況



西伯郡伯耆町

「大山山系(日野川水系)直轄砂防事業」

1. 事業概要

大山山系(日野川水系)直轄砂防事業は、解体期にある大山及び各溪流から流出する土砂災害から地域住民の生命と財産を守るため実施しており、引き続き整備率向上を図ると共に、下流域へバランスのとれた土砂供給を行うため、水系一貫した流域土砂管理の砂防事業を展開していきます。

平成24年度事業内容

- 三の沢砂防堰堤 : 土砂災害対策の促進として、平成25年度完成に向け、本体工事を促進します。
- 須郷砂防堰堤 : 土砂災害対策の促進として、平成27年度完成に向け、本体工事を促進します。
- 林ヶ原砂防堰堤 : 土砂災害対策の促進として、平成27年度完成に向け、用地買収を促進します。
- 日光砂防堰堤 : 土砂災害対策の促進として、平成27年度完成に向け、砂防堰堤設計を行います。

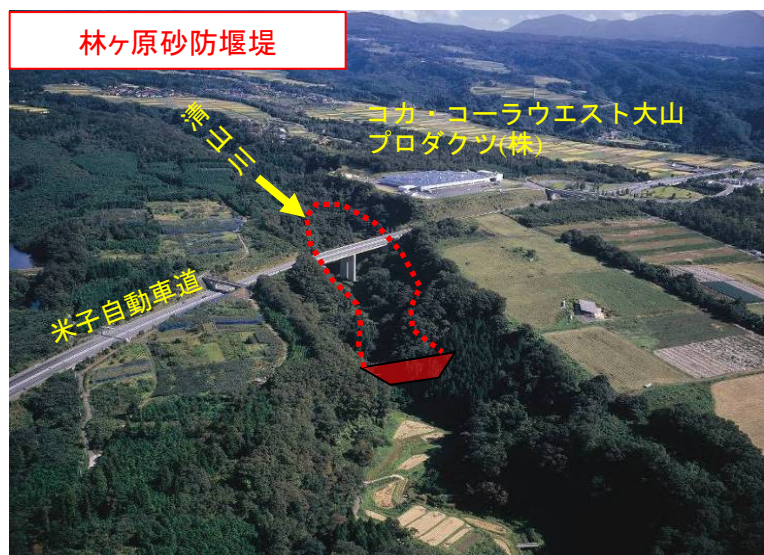
三の沢砂防堰堤



須郷砂防堰堤



林ヶ原砂防堰堤

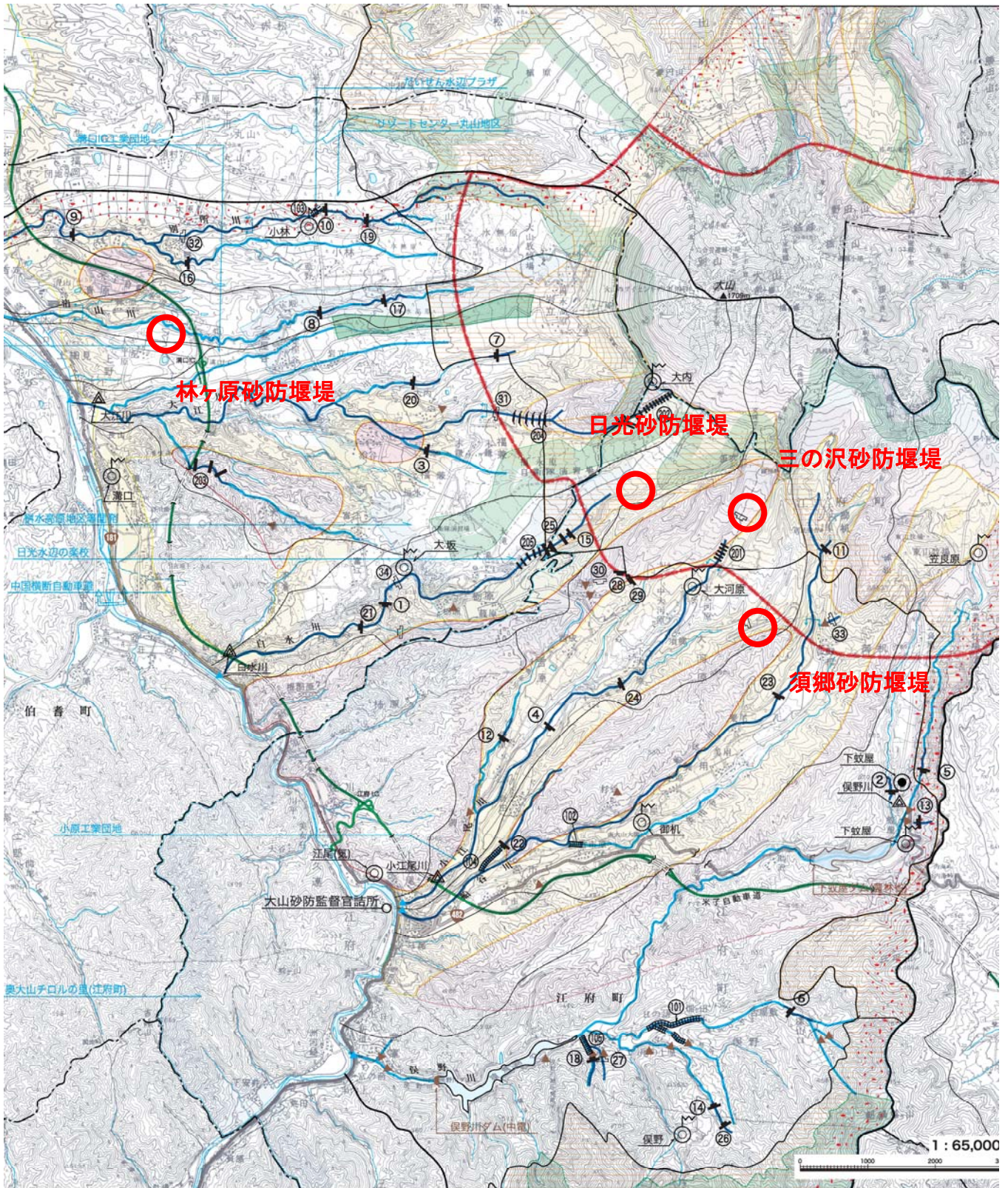


白水川



日光砂防堰堤

「大山山系(日野川水系)直轄砂防事業」



「大山山系(日野川水系)直轄砂防事業」



三の沢砂防堰堤
 整備土砂量 = 119,300m³, H=11.5m
 L=304m
 堰堤のタイプ: 鋼製スリット型砂防堰堤
 目的: 小江尾川の土砂災害の軽減及び日野川への土砂流出の抑制を目的に設置。



須郷砂防堰堤
 整備土砂量 = 73,300m³, H=14.5m
 L=74m
 堰堤のタイプ: 鋼製スリット型砂防堰堤
 目的: 小江尾川の土砂災害の軽減及び日野川への土砂流出の抑制を目的に設置。

「大山山系(日野川水系)直轄砂防事業」

林ヶ原砂防堰堤

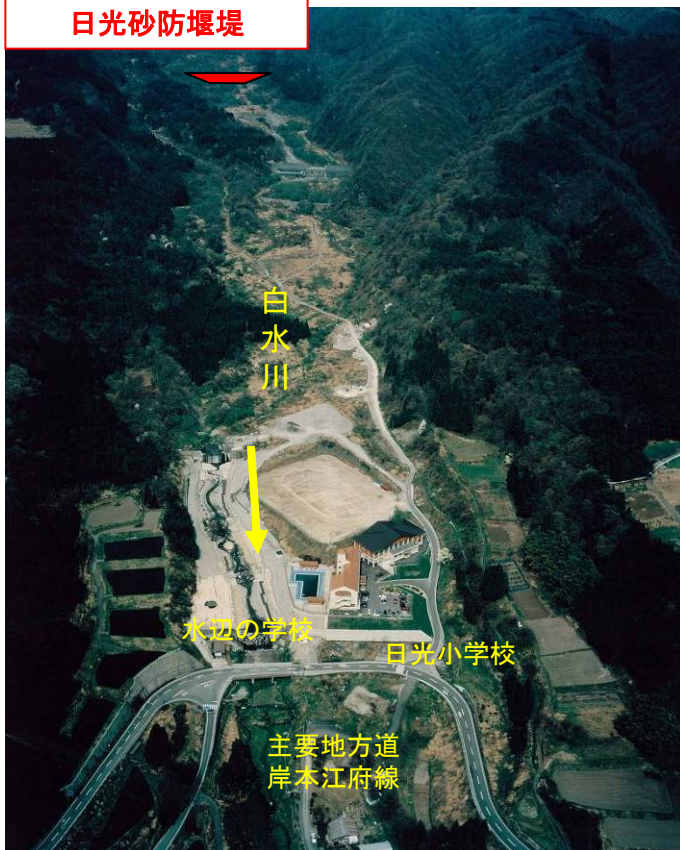


林ヶ原砂防堰堤

整備土砂量 = 136,300m³, H=14.5m
L=80m

堰堤のタイプ: 鋼製スリット型砂防堰堤
目的: 清山川の土砂災害の軽減及び日野川への土砂流出の抑制を目的に設置。

日光砂防堰堤



日光砂防堰堤

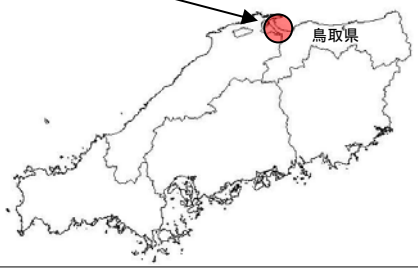
整備土砂量 = 153,300m³, H=13.0m
L=349m

堰堤のタイプ: 鋼製スリット型砂防堰堤
目的: 白水川の土砂災害の軽減及び日野川への土砂流出の抑制を目的に設置。

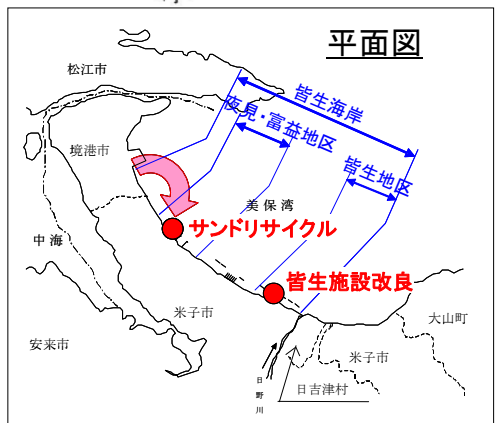
●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
○災害の防止・軽減

事業推進

皆生海岸



皆生海岸の侵食対策として、皆生地区において、沖合侵食により機能低下した離岸堤の機能回復を図るため、施設改良(人工リーフ化)を実施します。また、富益地区^{とみまさ}において、侵食で移動した土砂を元の場所に戻すサンドリサイクルを実施します。



かいけ
皆生地区における施設改良(人工リーフ化)

施設改良(3基目)
【H24年度着手予定】

施設改良(2基目)
【H23年度完成】

施設改良(人工リーフ化)を推進

(凡例)
 ■ 平成23年度以前整備箇所
 ■ 平成24年度整備箇所
 ■ 平成25年度以降整備箇所

海水浴客で賑わう皆生海岸

サンドリサイクル施工前 (撮影日H17.12.27)



サンドリサイクル施工後 (撮影日H18.3.8)



▲サンドリサイクルにより砂浜を保全

施設改良の効果



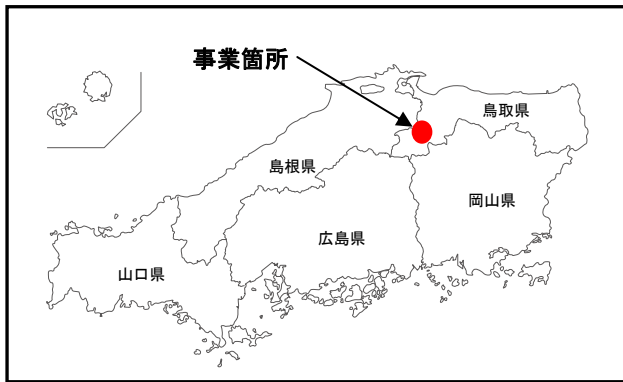
期待される整備効果

・機能が低下している皆生地区の海岸保全施設の機能回復を図り、海岸侵食による被害を防止します。また、水平線が見渡せるなど景観改善や、波打ち際の勾配が緩くなることで海水浴等の利用がしやすくなるといった効果も期待できます。
・白砂青松の豊かな自然が残る富益地区^{とみまさ}において、海岸侵食による被害を防止するとともに、利用者が安心して快適に利用できる自然豊かな砂浜を保全します。

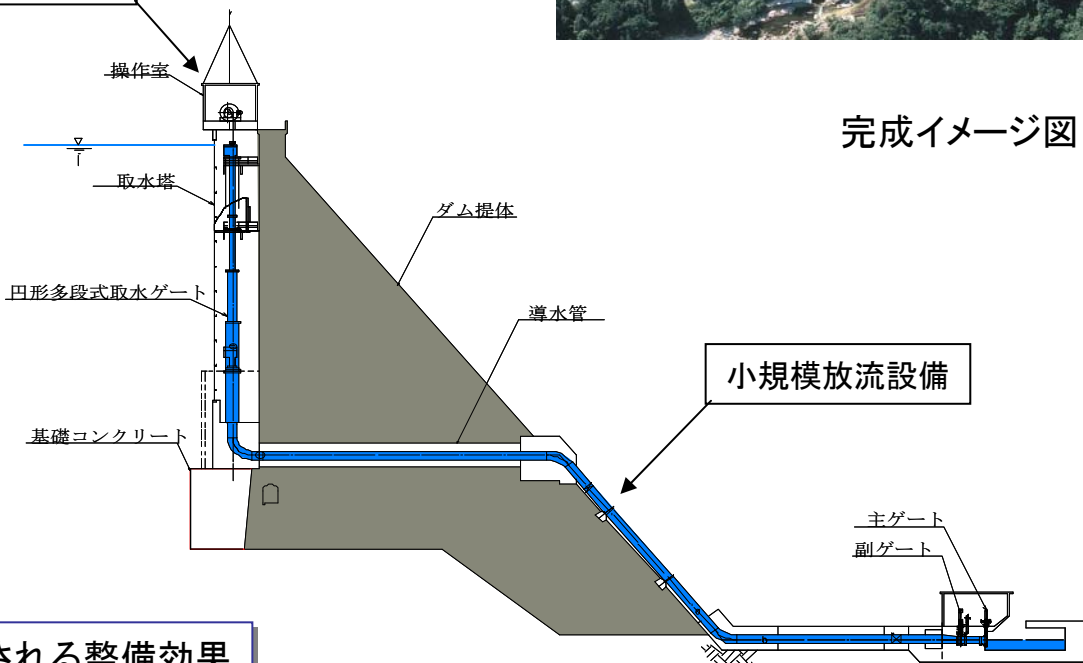
●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり
○災害の防止・軽減

完成予定

菅沢ダムは管理移行後、40年余りが経過し、ダム設備の老朽化等に伴いダムの機能確保、適正管理に支障をきたし、対策が必要となったため、平成14年度から堰堤改良事業に着手し、平成20年度までに庁舎及び常用洪水吐きゲートの改造・ダム放流設備制御装置の設置を完了しています。平成24年度は、小規模放流設備工及び利水取水設備工を完成し、事業を完了します。



利水取水設備



期待される整備効果

施設改良により取水放流能力を向上させ、洪水調節操作の円滑化及び日野川下流への安定的な利水補給を行い、適正かつ効率的な貯水池運用を図ります。

平成24年度事業の概要

境港湾・空港整備事務所

1. 港湾事業

1) 鳥取港改修事業

【資料編 境港－1】

年間を通じ、安全かつ利用しやすい港となるように、新規航路(西浜航路)の開設に必要な防波堤(第1)の西側への延伸事業を実施します。

延伸事業につきましては、平成23年度までに、防波堤延伸総延長 300m のうち約 250m が概成しており、平成24年度は引き続き、防波堤延伸のためのケーソン据付工等を実施します。

2) 境港改修事業

【資料編 境港－2】

境港における大型貨物船対応岸壁、ふ頭用地の恒常的な不足を解消するとともに、併せてふ頭の再編を行うことで在来貨物及び、将来増加する貨物需要(リサイクル貨物、既往企業の利用拡大、新規立地企業による港湾利用等)も含めた効率的な利用を図るため、外港中野地区において、水深 12mの国際物流ターミナルの整備を行います。平成24年度は現地工事着手のための調査・設計等を実施します。

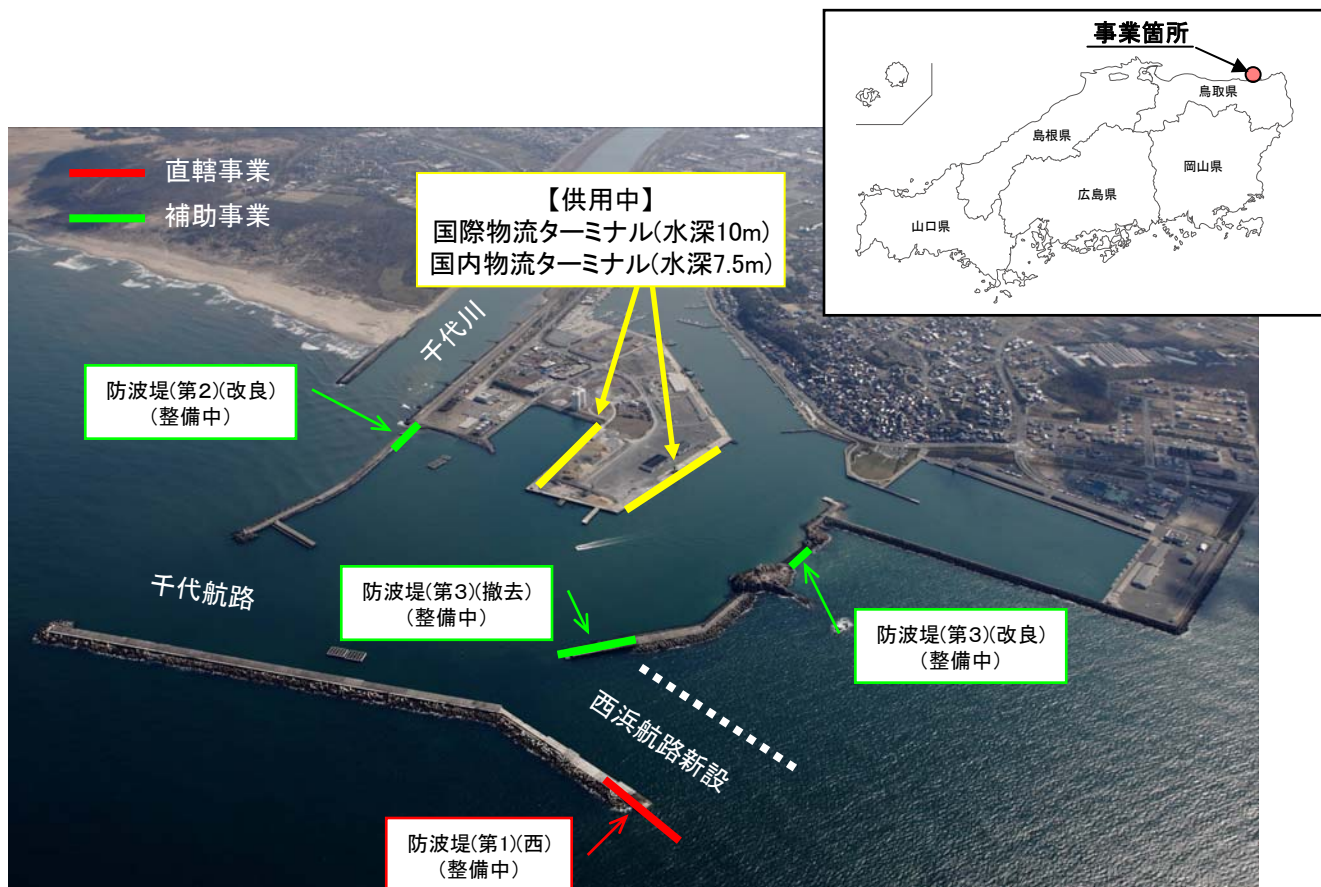
また、年間を通じ、効率的かつ安全な岸壁荷役に資する防波堤整備を推進しています。平成24年度は外港地区の防波堤(2)のケーソン据付工等を実施します。

●安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり

○陸上及び海上における交通安全の向上

鳥取港は、国際物流ターミナル(水深10m)等を中心に、山陰地方東部経済圏の拠点港として機能しています。一方、鳥取港に入出港する船舶が通航する千代航路は、冬期風浪や台風等により港口付近で波のじょう乱が発生し、中小貨物船の安全な航行に影響を及ぼしています。

このため、西浜航路を新設するとともに、必要となる港内の静穏度を確保するため、防波堤の整備を推進しています。



期待される整備効果

本事業により、港内の静穏度が向上し、年間を通じた岸壁荷役作業の効率化が図られるとともに、航行船舶の安全性向上及び避難水域の確保に寄与します。

●競争力のある地域経済社会の再構築

○東アジア等との競争・連携による国際競争力の強化

山陰地方の中央に位置する境港は、背後圏に製紙、木材加工、鉄鋼等、多くの企業が立地し、原材料の輸入や製品の輸出等を通じ、地域の経済活動を支えています。

近年、山陰地方初となるリサイクルポートの指定(平成23年1月)、日本海の対岸諸国(韓国、ロシア等)の経済成長とトライアル輸送の成功等を通じ、今後の環日本海交流の発展を期待した電子部品、電気自動車工場等の新たな企業進出が相次いでおり、多様な貨物の増加が見込まれています。加えて、日本海側拠点港の選定(平成23年11月)を契機とした、更なる利便性向上のための取組みの促進も期待されています。

しかしながら、貨物量の増加や船舶大型化に伴い、大型岸壁やふ頭用地の不足等の問題が顕在化してきており、非効率な輸送の解消が喫緊の課題となっています。

そのため、外港中野地区に、3万トン級の大型船に対応した国際物流ターミナルを整備するとともに、既存ふ頭の再編を行うことで、境港全体の機能強化を図ります。



期待される整備効果

本事業により、将来増加する多様な貨物の取扱を円滑に行うことが可能となるとともに、利用企業の物流コストの削減が図られること等を通じ、地域産業の競争力強化、雇用の確保等に寄与します。

また、日本海側の物流機能が強化されることで、大規模地震等の被災リスクの高い瀬戸内・太平洋側地域のリダンダンシーの確保、粘り強い国土軸の形成に寄与することが期待されます。

平成24年度事業の概要

出雲河川事務所

1. 河川事業

1) 斐伊川一般河川改修事業(渡地区・葭津地区) 【資料編 出雲-1】

- 中海において、近年高潮で浸水被害を受けている境港市渡地区と米子市葭津地区において湖岸堤整備を実施します。

2) 斐伊川総合水系環境整備事業(中海東岸(大崎)地区) 【資料編 出雲-2】

- 中海の水環境の改善を目指し、大崎地区において浅場造成を推進します。

事業推進

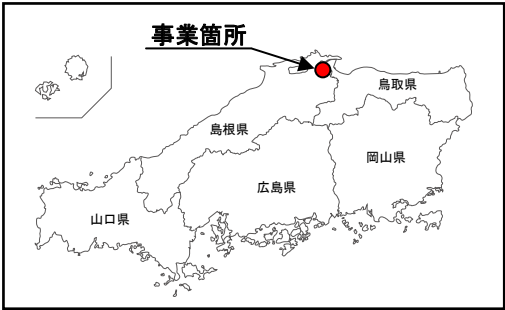
中海^{なかうみ}では近年高潮等による浸水被害が頻発しています。特に平成14年、15年、16年と続いた高潮や越波による浸水被害は、湖岸堤が未整備の箇所において発生しており、当面の対策として、湖岸堤高がHP+1.44m未満かつ、過去に越水による浸水実績がある若しくは背後に家屋が集積している箇所の湖岸堤整備を優先的に推進します。

平成24年度は、境港市渡地区^{さかいみなとじわたり}、米子市葭津地区^{よなごしよしづ}において湖岸堤整備を実施します。

状況写真



位置図



湖岸堤整備



期待される整備効果

湖岸堤の整備により、観測史上最大の潮位を観測した平成15年の高潮による浸水被害を防止するとともに、台風時期の波浪による越波等の浸水被害を軽減します。

湖岸堤整備

事業推進

中海・宍道湖は日本有数の規模を誇る汽水域で、魚介類や渡り鳥の生息場として重要な環境でありラムサール条約の登録湿地となっています。

平成24年度は中海の水環境の改善を目指し、大崎地区での浅場造成を実施します。

整備前



中海の殆どが人工湖岸です。

整備後



事業箇所



藻場の再生
(中海整備箇所)



再生した浅場では魚介類の増加が見られる
(中海整備箇所)

期待される整備効果

浅場の造成により、ヨシ帯や藻場など湖岸域の浅場環境が再生し、自然が本来もつ浄化機能を回復して水質浄化を図ります。

アオコや赤潮の発生抑制によって湖岸の景観も向上するほか、地域の人々等の憩いの場としての機能が向上します。